TOSHIBA　東芝壁掛形非常放送アンプ取扱説明書

対象機種	AWF-1000RCシリーズ AWH-1010RC……壁掛形非常放送アンプ本体（10局） AWH-1020RC……壁掛形非常放送アンプ本体（20局） AWH- 600PA……電力増幅器ユニット（ 60W） AWH-1200PA……電力増幅器ユニット（120W） AWH-2400PA……電力増幅器ユニット（240W）

このたびは東芝壁掛形非常放送アンプをお買いあげいただきまして、まことにありがとうございました。
お求めの壁掛形非常放送アンプを正しく使っていただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
なお、お読みになったあとは必ず保存してください。

目　次

安全上のご注意…… 2
各部のなまえと大きさ…… 8
各部のなまえとはたらき…… 9
設置上のご注意……11
設置のしかた……14
組み込みユニットの取付けかた……16
平衡入力にする方法（マイク１、マイク２、時報チャイム、ライン１入力）……19
接続のしかた……20
　内部配置図……20
　電源とアースの接続……20
　非常用蓄電池の接続……21
　蓄電池の充電電流の設定……21
　スピーカの接続……22
　自動火災報知設備との接続……23
　音声誘導付避難誘導灯設備との接続……23
　電源カットリレー、スピーカ切換ボックスとの接続……24
　非常業務リモコンとの接続……25
　マイク１、２入力の接続……26
　ライン２入力、ライン３入力の接続……26
　業務リモコン/外部入力、時報チャイム入力、ライン１入力の接続……27
　業務リモコンとの接続……28
初期設定……29
取付が完了したら……30
スピーカ回線保護ヒューズ溶断時の処置のしかた……31
調節のしかた……32
非常放送のしかた……34
業務放送のしかた……45
　操作のしかた……46
　放送先の選択のしかた……46
　業務放送の優先順位について……46
　オートレベルダウンについて……47
保守点検のしかた……48
修理サービス……50
仕　様……51

工事店様へ 工事が終了しましたら、この説明書は必ずお客様へお渡しください。

お客様はお読みになったあとも必ず保存してください。

＜生産完了 2006年02月09日＞
AWH-1200PA (1 / 52)

安全上のご注意

●ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
●お読みになった後は本機のそばなど、いつも手元に置いてご使用ください。
●この取扱説明書および製品への表示では、製品を正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図のなかに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な注意内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

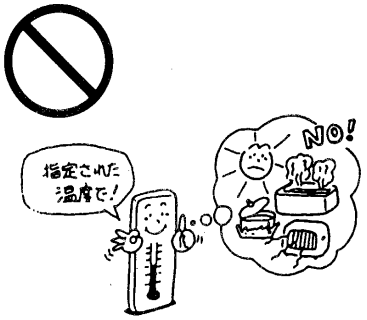
●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠警告

〔据付、設置、接続、移動にあたっての注意〕

■通風のよい場所に設置してください。高温や湿度、ほこりの多い次のような場所には設置しないでください。火災、感電の原因となります。

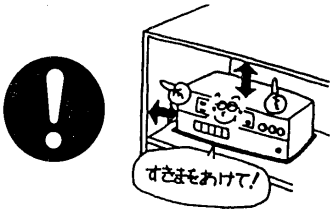
- サウナや風呂場など
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたるような場所
- 直射日光のあたる場所
- 夏の窓を閉めきった自動車の中
- 電気、ガス、石油ストーブなどの暖房器具の直上やその付近
- 有害ガスやいろいろなほこりが特に多い所



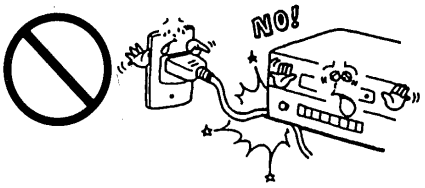
■この機器の通風孔はふさがないでください。通風孔をふさぐと、内部に熱がこもり、火災の原因となります。次のような使い方はしないでください。

- 風通しの悪い狭い所におしこむ。
- テーブルクロスなどをかけたり、じゅーたんや布団の上に置いて使用する。
- 仰向けや横倒し、逆さにする。

■この機器を設置する場合、間隔をおいて据えつけてください。
また放熱をよくするために、他の機器との間を少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、すきまをあけてください。
内部に熱がこもり火災の原因となります。

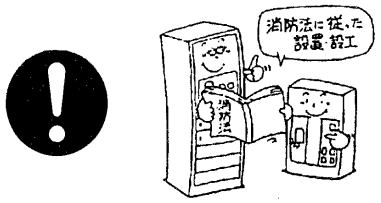


■電源コードの上に重いものを乗せたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。
コードに傷がついて、火災、感電の原因となります。

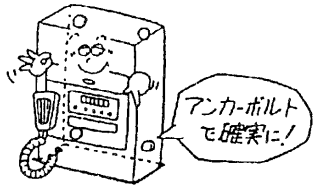


⚠ 警告

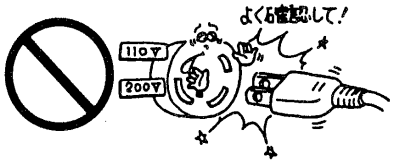
■非常放送設備は消防法でその施工に関して定められています。法令に従って機器の選定、設置、配線、接続、点検を行ってください。



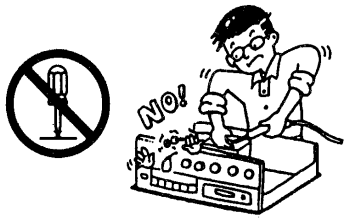
■据えつけは指定のアンカーボルトでしっかりと固定してください。指定以外のアンカーボルトを使用したり、固定がゆるいと地震発生時機器が落下したり倒れたりしてけがの原因になります。



■表示された電圧（交流100V）以外の電圧で使用しないでください。火災、感電の原因となります。

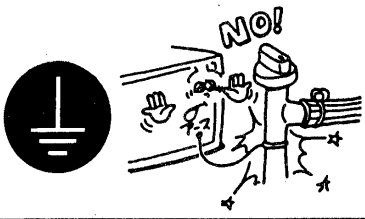


■この機器は改造しないでください。
火災、感電の原因となります。

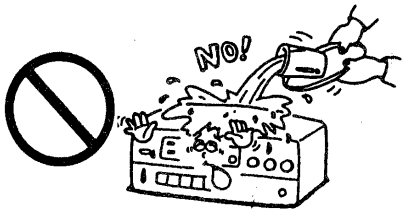


■AC100V関係の配線工事は電気工事士にご依頼ください。
一般の人が行うことは法により禁じられています。

■必ずアース端子は接地してください。
- 外来ノイズから機器を守るノイズ吸収素子の働きを活かすために、必ずアース端子を接地してください。
- ガス管にアースすると危険ですから絶対におやめください。
- アースは第3種接地工事（接地抵抗100Ω以下）とし、専用としてください。



〔使うときの注意〕
■この機器に水が入ったり、濡らさないようにご注意ください。
火災、感電の原因となります。

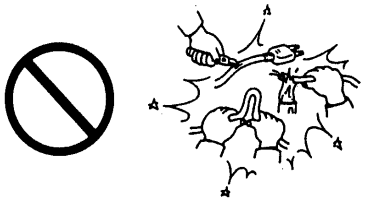


■この機器の上に花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。
こぼれたり、中に入った場合、火災、感電の原因となります。

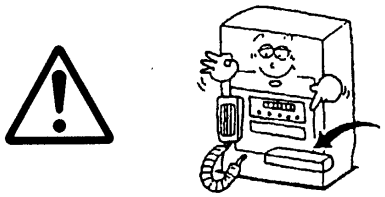
■この機器の操作パネルは、専門知識を持った人以外は絶対に開けないでください。感電の原因になります。
内部の点検、調整、修理は販売店にご依頼ください。

⚠ 警告

■電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたりねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。
火災、感電の原因となります。

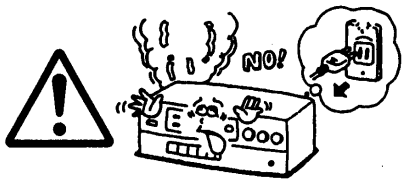


■電池を充電するときは、この機器に組み込んで充電してください。
充電器等を使用すると電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

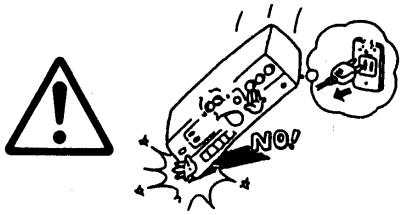


■万一、機器の内部に水や金属物などが入った場合は、まず本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電の原因となります。

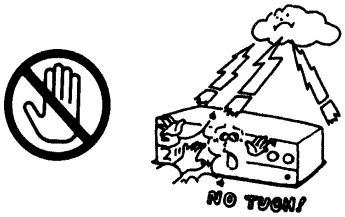
■万一、煙が出ている、変な臭いがする、異常な音がするなどの異常状態のまま使用すると火災、感電の原因となります。
すぐに、本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて煙が出なくなるのを確認してから、販売店に修理を依頼してください。



■万一、この機器が落下したり、ケースを破損した場合は、内部の主電源スイッチを（専門知識を持った人が）切るか、電源を断にするかして販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると火災、感電の原因となります。



■雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。



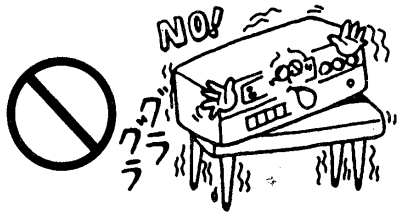
■この機器の通風孔から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落としたりしないでください。
火災、感電の原因となります。

〔お手入れ、保守、点検にあたっての注意〕
■電源コードが痛んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのままで使用すると火災、感電の原因となります。

⚠ 注意

〔据付、設置、接続、移動にあたっての注意〕

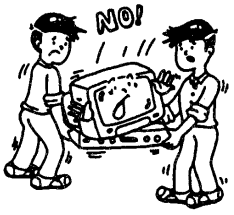
■ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。



■アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。送配電から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となる場合があります。

■移動させる場合は電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してから行ってください。そのままで移動するとコードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

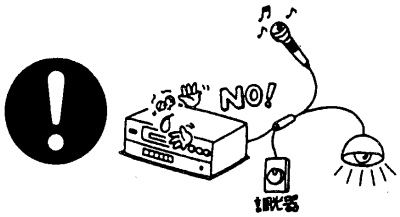
■この機器の上にテレビやオーディオ機器などを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。



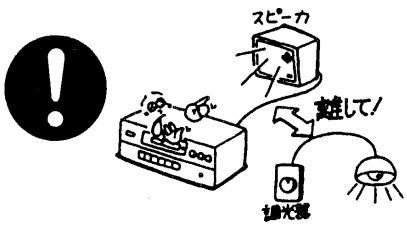
■機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。

■電源コードや接続機器類のコードを抜くときは、コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。

■アンプの入力線はスピーカ線や調光器系統、AC電源系統とは必ず別配管とし離して布線してください。
同一配管しますと、発振やノイズ発生、誤動作の原因となります。

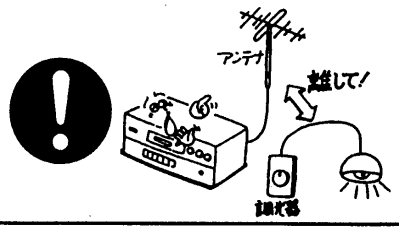


■スピーカ線と調光器、高圧放電灯（水銀ランプ、メタルハライドランプ）などの配線は離して布線してください。
ノイズ発生や誤動作の原因となります。

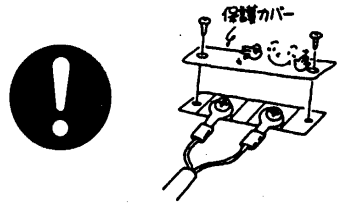


⚠ 注意

■アンテナ線と調光器、高圧放電灯（水銀ランプ、メタルハライドランプ）などの配線は離して布線してください。
ノイズ発生や誤動作の原因となります。

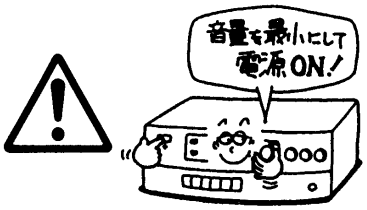


■施工完了後は必ず取り外した端子カバー等は元通りに戻してください。戻し忘れると感電、地絡の原因となります。

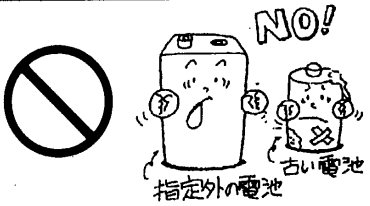


〔使うときの注意〕
■濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。

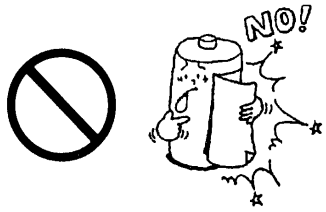
■電源を入れる前にアンプの音量（ボリューム）を最小にしてください。
突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。



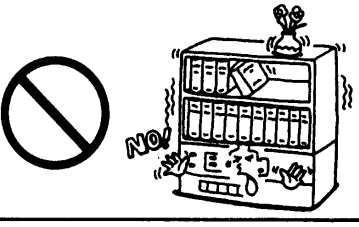
■指定以外の電池は使用しないでください。
電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲汚損の原因となります。



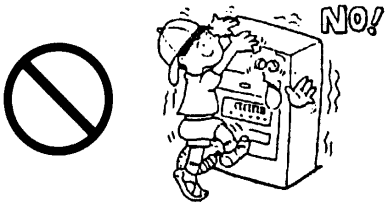
■充電式電池に貼ってあるビニールカバーははがさないでください。
ショートして電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。



■この機器の上に重いものや、外枠からはみ出るような大きいものを置かないでください。
バランスがくずれて倒れたり落下してけがの原因となることがあります。



■この機器の上に乗ったりしないでください。
特にお子様にはご注意ください。
こわれたりして、けがの原因になることがあります。

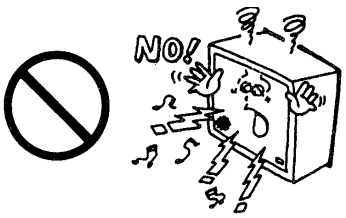


■ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

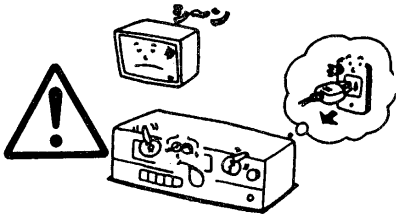
＜生産完了 2006年02月09日＞
AWH-1200PA (6 / 52)

⚠ 注意

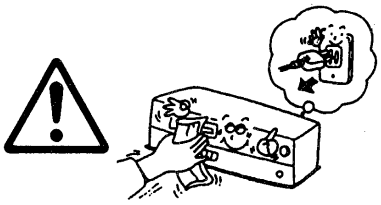
■長時間音が歪んだ状態で使わないでください。
スピーカが発熱し、火災の原因となることがあります。



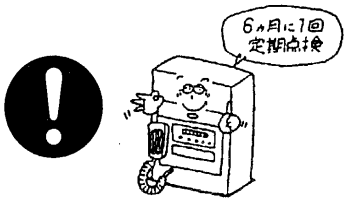
■使用中に突然音が出なくなったなどの異常が生じたときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてお近くの販売店にご相談ください。
そのまま放置しておくと、大変危険です。



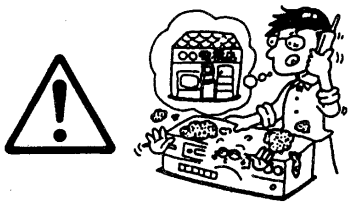
〔お手入れ、保守、点検にあたっての注意〕
■お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。



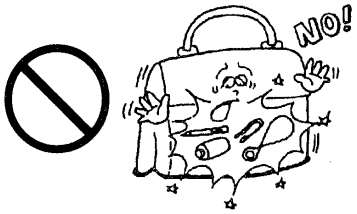
■この機器は消防法で６ヶ月に１回の定期点検が義務づけられています。点検の有資格者（甲種消防設備士）に６ヶ月間に１回の定期点検を依頼してください。



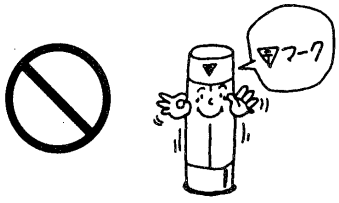
■１年に一度ぐらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりのたまったまま、長い間掃除しないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うとより効果的です。



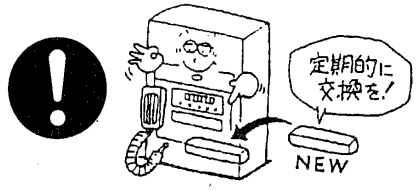
■電池は電線、工具や電気部品などと一緒に保管しないでください。
電池のプラス端子とマイナス端子がショートし、電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。



■ヒューズを交換するときは必ずⓋマークの指定容量のものをご使用ください。針金や銅線は使用しないでください。
機器の保護ができず、発熱、火災の原因となります。



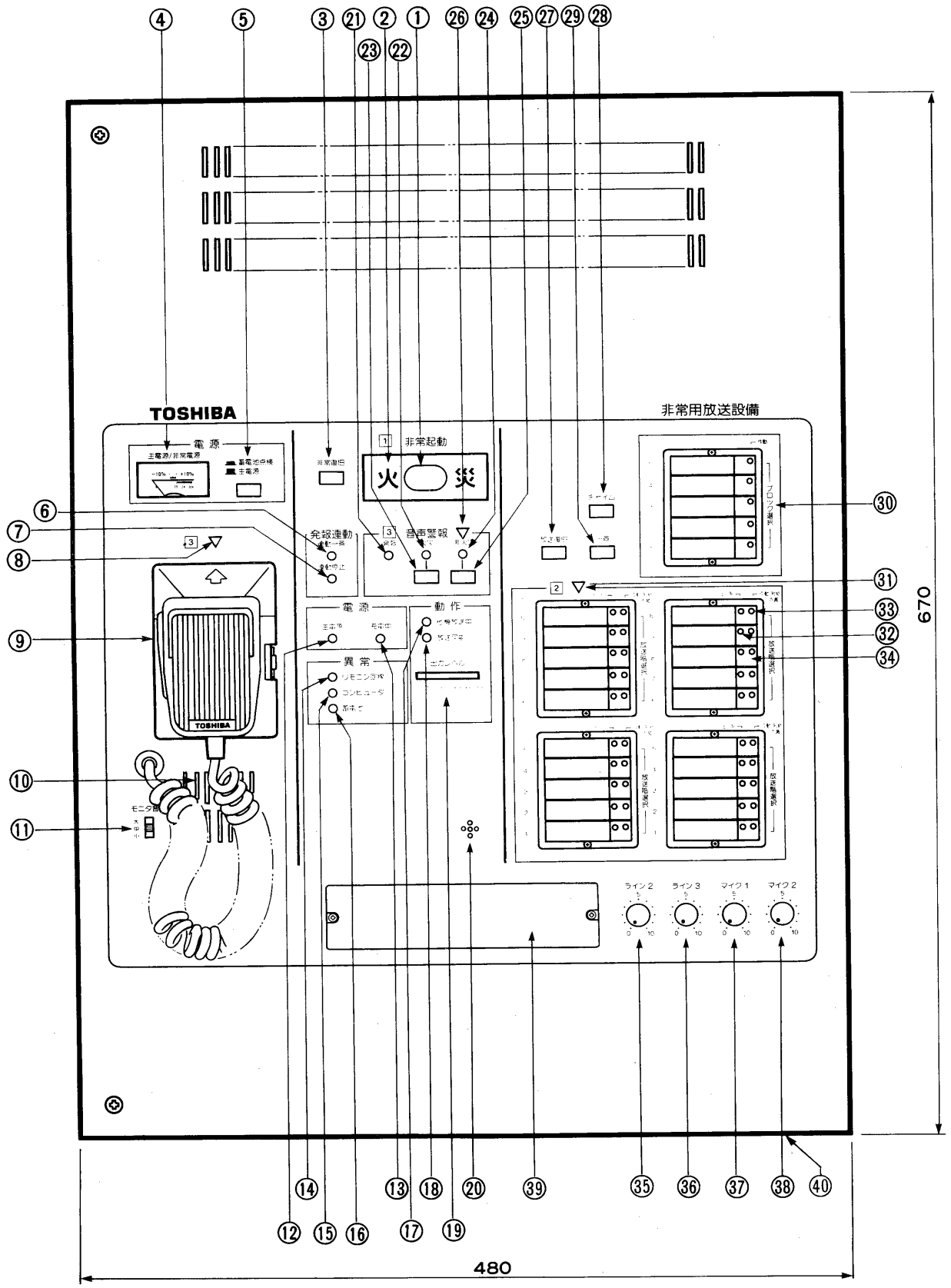
■バッテリーなど部品交換の必要がある機器は適時交換してください。交換を忘れるといざという時正常に動作しない原因となります。

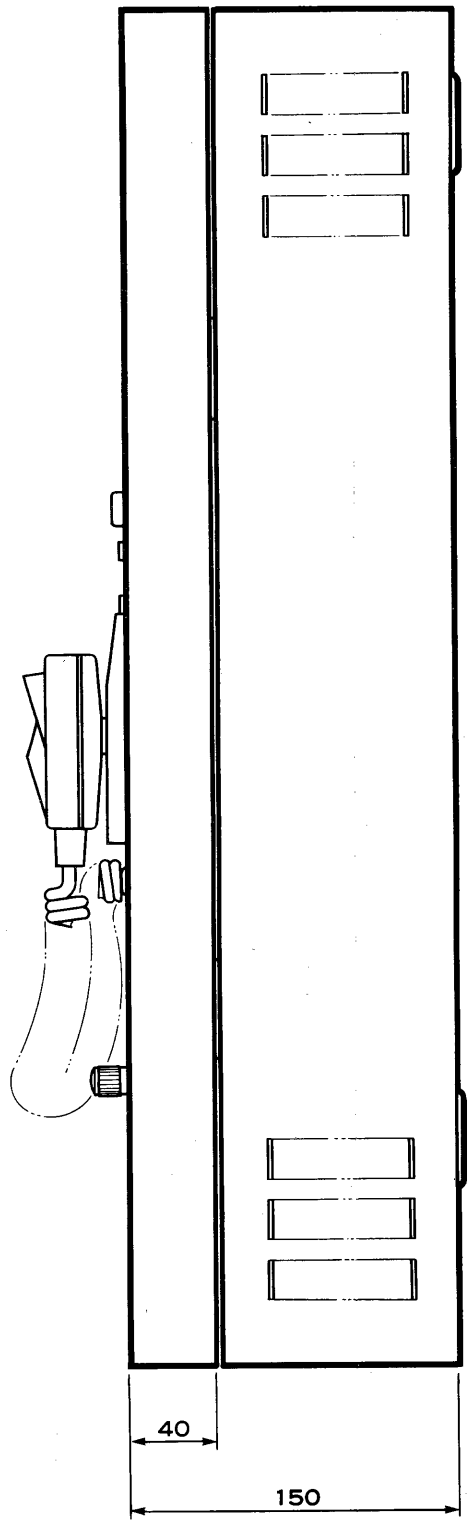


〔廃却するときの注意〕
■バッテリーなど中に有害物資を含んだ物は一般のごみと一緒に処理できません。
必ず専門の業者に依頼するなど十分に注意して処理してください。

<生産完了 2006年02月09日>
AWH-1200PA (7 / 52)

各部のなまえと大きさ





①非常起動スイッチ
②火災灯
③非常復旧スイッチ
④主電源/非常電源電圧計
⑤蓄電池点検スイッチ
⑥連動一斉表示灯
⑦連動停止注意灯
⑧マイク指示灯
⑨非常・業務兼用マイクロホン
⑩モニタスピーカ
⑪モニタ音量調節器
⑫主電源表示灯
⑬充電中表示灯
⑭リモコン回線異常表示灯
⑮コンピュータ異常表示灯
⑯蓄電池異常表示灯
⑰他機放送中表示灯
⑱放送可能表示灯
⑲放送出力レベル計
⑳火災音用ブザー
㉑発報放送表示灯
㉒火災放送表示灯
㉓火災放送スイッチ
㉔非火災放送表示灯
㉕非火災放送スイッチ
㉖音声警報指示灯
㉗放送復旧スイッチ
㉘チャイムスイッチ
㉙一斉放送スイッチ
㉚ブロック選択スイッチ
㉛放送階選択指示灯
㉜出火階表示灯
㉝階別作動表示灯(短絡表示灯兼用)
㉞放送階選択スイッチ
㉟ライン２入力音量調節ツマミ
㊱ライン３入力音量調節ツマミ
㊲マイク１入力音量調節ツマミ
㊳マイク２入力音量調節ツマミ
㊴ブランクパネル
㊵マイクコード通線穴

各部のなまえとはたらき

電 源
主電源/非常電源
−10% +10%
20 24 30V
蓄電池点検
主電源

④主電源/非常電源電圧計
- 常時は主電源電圧を表示します。
- 蓄電池点検時は、蓄電池の電圧を表示します。

⑤蓄電池点検スイッチ
- 蓄電池の電圧を点検するときに押します。

①非常起動スイッチ
- 手動で非常放送するときおよび火災放送するときに押します。

②火災灯
- 自火報(自動火災報知設備)または非常起動スイッチからの起動により点灯または点滅します。
- 感知器起動時および手動起動時の火災放送移行への第１タイマー動作中は点滅します。

③非常復旧スイッチ
- 非常放送終了時に押します。
- 非常放送が復旧します。

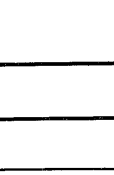
発報連動
運動一斉
運動停止

⑥連動一斉表示灯
- 自火報との連動を連動一斉に設定したときに点灯します。
- 設定、解除はマイク扉内のキースイッチでできます。

⑦連動停止注意灯
- 自火報との連動を停止に設定したときに点灯します
- 設定、解除はマイク扉内のキースイッチでできます

⑧マイク指示灯
- 非常放送時点滅により操作手順を知らせます。
- マイク放送しているときは点灯します。

⑨非常・業務兼用マイクロホン
- トークスイッチを押しながら放送します。



⑩モニタスピーカ
- 放送内容をモニタできます。
- 非常放送時は操作ガイドの音声もでます。

⑪モニタ音量調節器
- モニタスピーカの音量を調節できます。大、中、小の３段階に調節できます。
- 非常・業務兼用マイクロホンを使用時にはハウリング防止のため、トークスイッチを押すと自動的にモニタ音量は低下します。

電 源
主電源　充電中

⑫主電源表示灯
- 電源が供給されているとき点灯します。

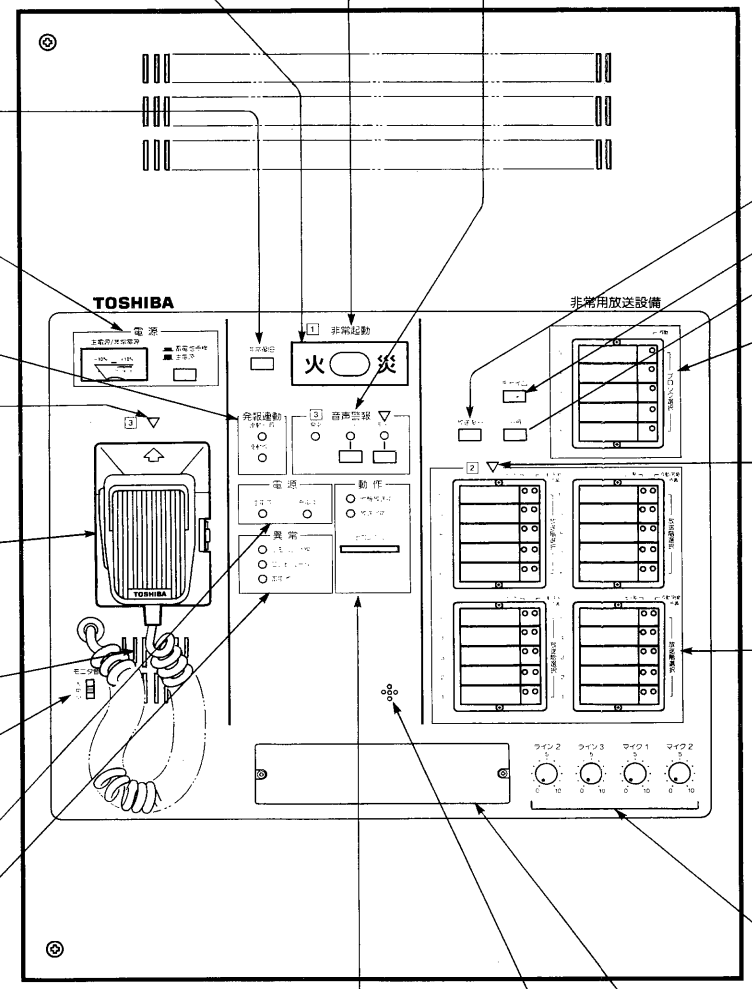
⑬充電中表示灯
- 常用電源(AC 100V)を受電中、内蔵の蓄電池を充電しているときに点灯します。

異 常
- リモコン回線
- コンピュータ
- 蓄電池

⑭リモコン回線異常表示灯
本体と非常業務リモコン間の回線に異常があると点灯します。

⑮コンピュータ異常表示灯
コンピュータに異常が生じると点灯します。

⑯蓄電池異常表示灯
蓄電池に異常が生じると点灯します。



動 作
- 他機放送中
- 放送可能

出力レベル
−10 −5 0 +3 +6 dB

⑰他機放送中表示灯
- 非常業務リモコン放送、業務リモコン放送および外部放送等をしているとき点灯します。

⑱放送可能表示灯
- 本体の放送階選択スイッチ、一斉スイッチおよびブロックスイッチを押して放送可能な状態となると点灯します。

⑲放送出力レベル計
- 放送される音の出力レベルを表示し、音の大小に応じて点灯します。
- 音が大きすぎると赤色が点灯します。緑色が点灯する範囲でご使用ください。

⑳火災音用ブザー
- 非常放送時の火災音用のブザーです。

3 発報　音声警報 火災 非火災

㉖音声警報指示灯
- 非常放送時点滅により、操作手順を知らせます。

㉑発報放送表示灯
- 発報放送の音声警報メッセージの放送状態を点灯、点滅により知らせます。(点灯中が放送)

㉒火災放送表示灯
- 火災放送の音声警報メッセージの放送状態を点灯、点滅により知らせます。(点灯中が放送)

㉔非火災放送表示灯
- 非火災放送の音声警報メッセージの放送状態を点灯、点滅により知らせます。(点灯中が放送)

㉓火災放送スイッチ
- 火災放送するときに押します。

㉕非火災放送スイッチ
- 非火災放送するときに押します。

㉗放送復旧スイッチ
- 放送終了時に押します。
- 選択されていた回線が解除され復旧します。
- ただし第２タイマータイムアップ後(一斉火災放送状態で)は復旧操作はできません。

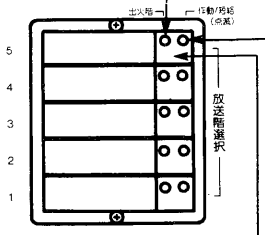
㉘チャイムスイッチ
- 放送前の予告音としてチャイム音を放送する時に押します。
- ４音の電子チャイム音が、１回放送されます。

㉙一斉放送スイッチ
- 非常および業務放送時、全回線一斉に放送するときに押します。
- 再度押すと復旧します。
- ただし(第２タイマータイムアップ後(一斉火災放送状態で)は復旧操作はできません。

㉚ブロック選択スイッチ
- 業務放送時、ブロック指定した回線に放送するときに押します。

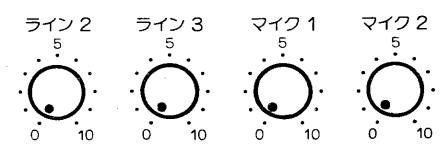
㉛放送階選択指示灯
- 非常放送時点滅により操作手順を知らせます。
- 非常放送時は、放送階が選択されると点灯します。
- 業務放送時は、緊急放送のとき点灯します。

㉜出火階表示灯
- 自火報(自動火災報知設備)等から起動がかかると点灯し、出火階を表示します。



㉝階別作動表示灯(短絡表示灯兼用)
- 放送先が選択され放送可能になったとき点灯します。
- スピーカ回線が短絡すると保護ヒューズが溶断しその回線は自動的に切り離され作動表示灯は点滅します。

㉞放送階選択スイッチ
- 非常または業務放送時、階別または系統別に放送するときに押します。
- 再度押すと復旧します。
- ただし第２タイマータイムアップ後(一斉火災放送状態で)は復旧操作はできません。



㉟ライン２入力音量調節ツマミ　**㊱ライン３入力音量調節ツマミ**　**㊲マイク１入力音量調節ツマミ**　**㊳マイク２入力音量調節ツマミ**
- 放送出力レベル計により、各入力音量を調節します。

㊴ブランクパネル
- ラジオチューナユニット等の別売のユニットを組込むことができます。

マイク扉内

㊹発報連動停止スイッチ

- 感知器からの起動時の連動条件を設定します。
- 囲スイッチを押しながら押しますと順次モードが下表のとおり変わり、表示灯が点灯、消灯します。

モード	⑥連動一斉表示灯	⑦連動停止表示灯
連　動	消　灯	消　灯
連動一斉	点　灯	消　灯
連動停止	消　灯	点　灯

㊵書き込みスイッチ

- 書き込み時に押します。

㊶コンピュータ制御スイッチ

コンピュータ制御
入
切

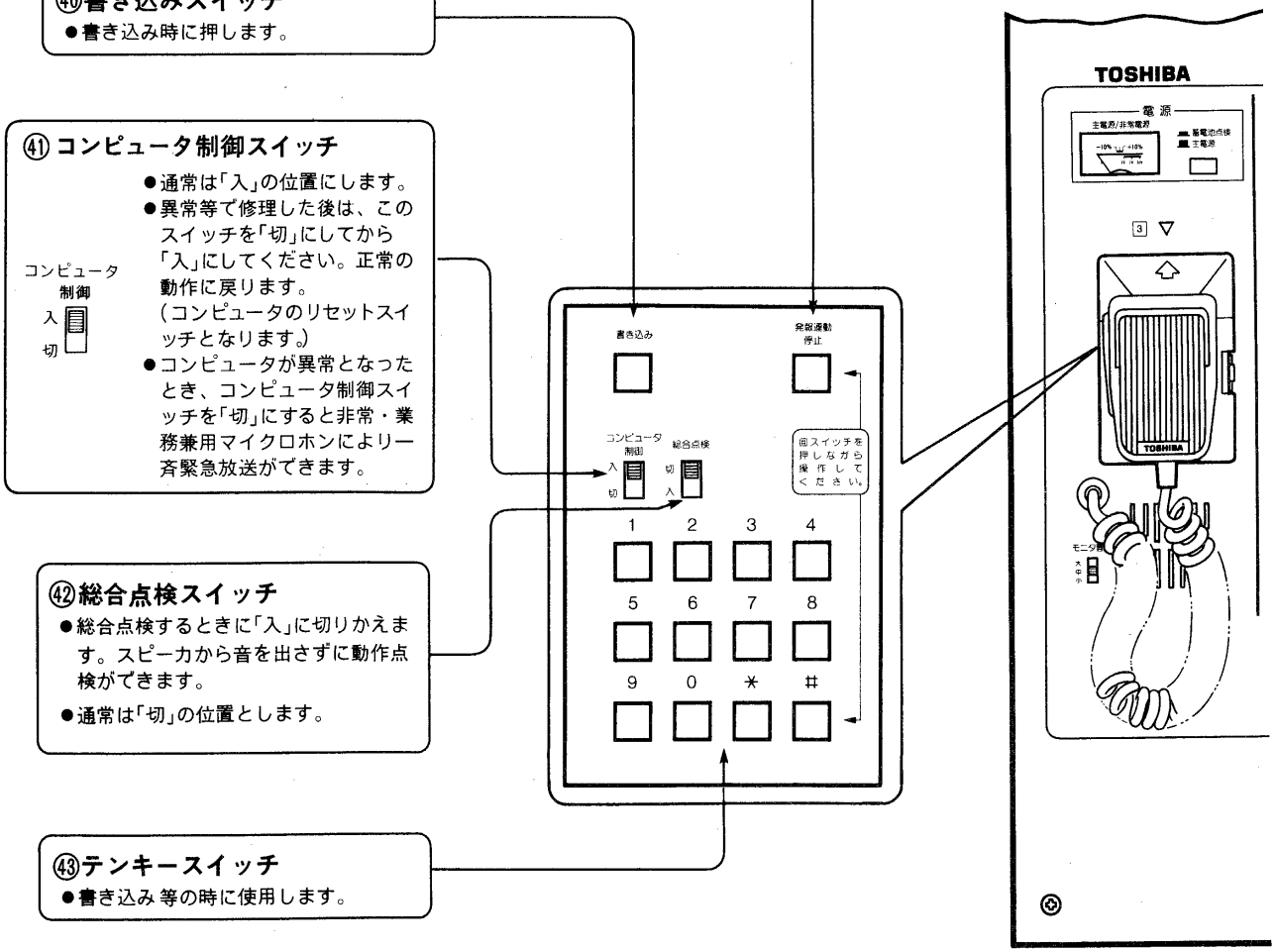
- 通常は「入」の位置にします。
- 異常等で修理した後は、このスイッチを「切」にしてから「入」にしてください。正常の動作に戻ります。（コンピュータのリセットスイッチとなります。）
- コンピュータが異常となったとき、コンピュータ制御スイッチを「切」にすると非常・業務兼用マイクロホンにより一斉緊急放送ができます。

㊷総合点検スイッチ

- 総合点検するときに「入」に切りかえます。スピーカから音を出さずに動作点検ができます。
- 通常は「切」の位置とします。

㊸テンキースイッチ

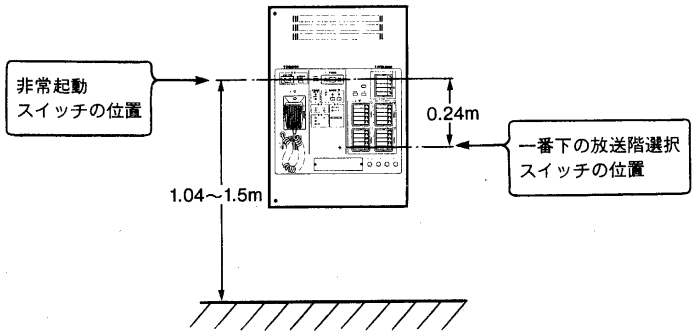
- 書き込み等の時に使用します。



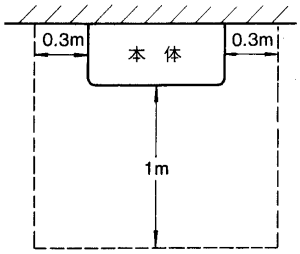
設置上のご注意

■本機は重量が約29～37kgありますので、しっかりした壁（コンクリートなど）に取付けてください。

■右欄の③項に適合させるためには、非常起動スイッチの位置が床面から1.04ｍ～1.5ｍの範囲内に入るように取りつけてください。（1.04ｍのとき、一番下の放送階選択スイッチの位置が床面から0.8ｍとなります。）



また、操作の妨げにならないよう左右および前面の下図の範囲内には障害物等を置かないでください。



■設置場所については消防法で、次のように規定されていますので、これに合致する場所を選定してください。

①増幅器及び操作部は守衛室等常時人がいる場所（中央管理室が設けられている場合には当該中央管理室）に設けること。
　－消防法施行規則第25条の２の３のルー

②増幅器、操作部及び遠隔操作器は点検に便利でかつ、防火上有効な措置を講じた位置に設けること。
　－消防法施行規則第25条の２の３のトー

③操作部の操作スイッチは、床面からの高さが0.8メートル以上1.5メートル以下の箇所に設けること。
　－消防法施行規則第25条の２の３の二ー

④一の防火対象物に二以上の操作部が設けられているときは、これらの操作部のある場所相互で同時に通話することができる設備を設けており、かつ、いずれの操作部からも当該防火対象物の全区域に火災を報知することができるものであること。
　－消防法施行規則第25条の２の３のヲー

●ここで防火上有効な措置を講じた位置とは、当該設備を設置する防火対象物のうち、壁、床および天井が不燃材料で造られており、その開口部は甲種防火戸を設けた室をいいます。

●報知区域については操作部または遠隔操作器が１以上守衛室等常時人がいる場所に設けられていれば、遠隔操作器等から報知できる区域を防火対象物全域としないことができる場合があります。（消防法第22号の５）

スピーカの設置について

スピーカの設置については消防法では次のように規定されています。

①

スピーカの音圧は、次の表に掲げる種類に応じ、取り付けられたスピーカから１ｍ離れた位置で下表に掲げる大きさであること

種　　類	音圧の大きさ
Ｌ　　級	92dB以上
Ｍ　　級	87dB以上92dB未満
Ｓ　　級	84dB以上87dB未満

－消防法施行規則第25条の２第２項の三のイ－

②

スピーカは、階段または傾斜路以外の場所に設置する場合、100m²を超える放送区域(防火対象物の２以上の階にわたらず、かつ、床、壁または戸(障子、ふすま等遮音性能の著しく低いものを除く。)で区画された部分をいう。)に設置するものにあってはＬ級のもの、50m²を超え100m²以下の放送区域に設置するものにあってはＬ級またはＭ級のもの、50m²以下の放送区域に設置するものにあってはＬ級、Ｍ級、またはＳ級のものを設けること。

－消防法施行規則第25条の２第２項の三のロ(イ)－

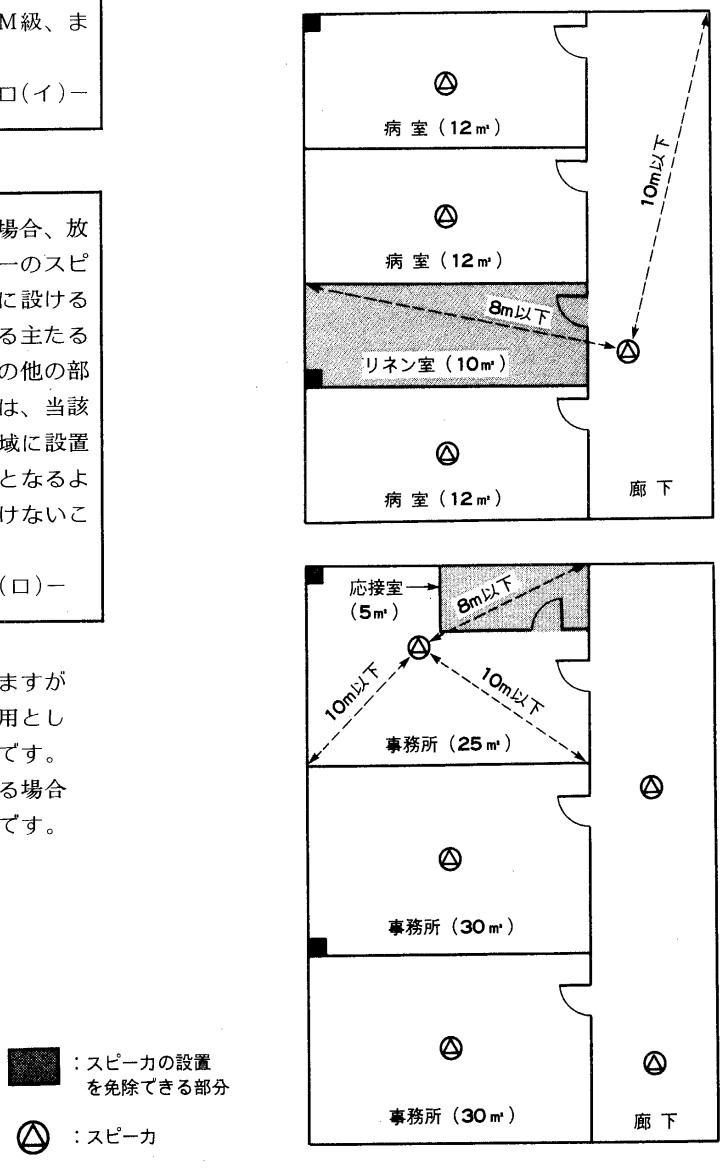
③

スピーカは(イ)に規定する場所に設置する場合、放送区域ごとに、当該放送区域の各部分から一のスピーカまでの水平距離が10ｍ以下となるように設けること。ただし壁および居室から地上に通じる主たる廊下その他の通路にあっては6m²以下、その他の部分にあっては30m²以下の放送区域については、当該放送区域の各部分から隣接する他の放送区域に設置されたスピーカまでの水平距離が８ｍ以下となるように設けられているときは、スピーカを設けないことができるものとする。

－消防法施行規則第25の２第２項の三のロ(ロ)－

- ２つのスピーカの間隔は20ｍ以内となりますが業務放送用と兼用する場合は、業務放送用として支障のないように考慮することが必要です。
- 同一室内に２つ以上のスピーカを設置する場合はスピーカの極性をあわせることが必要です。

- 放送区域の広さごとに設置できるスピーカの種類がＬ、Ｍ、Ｓ級に分けられました。



スピーカの設置を免除できる場合の例

＜生産完了 2006年02月09日＞
AWH-1200PA (12 / 52)

④

スピーカは、階段または斜傾路に設置する場合、垂直距離15ｍにつきＬ級のものを１個以上設けること。
－消防法施行規則第25条の２の三のロ(ハ)－

⑤

スピーカは80度の温度の気流中に30分間投入した場合、機能に異常を生じないものであること。
－告示第６号４の４の(２)－

配線について

本機(増幅器、操作部)の配線工事は、電気工作物にかかわる法令の規定によるほか、消防法の規定によります。

①本機～スピーカ、本機～遠隔操作器までの配線

イ、600ボルト耐熱ビニル絶縁電線またはこれと同等以上の耐熱性を有する電線を使用すること。
ロ、金属管工事、可とう管線管工事、金属ダクト工事、またはケーブル工事（不燃性のダクトに布設するものに限る）により設けること。ただし消防庁長官が定める基準に適合する電線を使用する場合はこの限りでない。
－消防法施行規則第25条の２の四の二－
－消防法施行規則第12条の１の五－

●消防庁長官が定める基準に適合する電線とは耐熱電線のことであり消防庁告示第10号に規定する基準に合格した電線です。この耐熱電線を使用すれば金属管工事等は不用です。

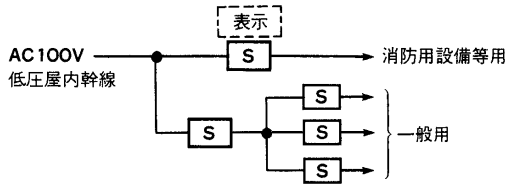
ハ、火災により一の階のスピーカまたは配線が短絡または断線しても他の階への火災の報知に支障がないように設けること。
－消防法施行規則第25条の２の四のハ－

●ある回線の短絡、断線が他の回線に影響しないようにするためには階別単独配線としなければなりません。スピーカラインが２線式のときは２線とも、３線式のときは３線とも階別に配線しなければなりません。

②本機の電源

イ、電源は蓄電池又は交流低圧屋内幹線から他の配線を分岐せずにとること。
ロ、電源の開閉器には、消防用設備等専用のものであることを表示すること。
－消防法施行規則第24条の３－

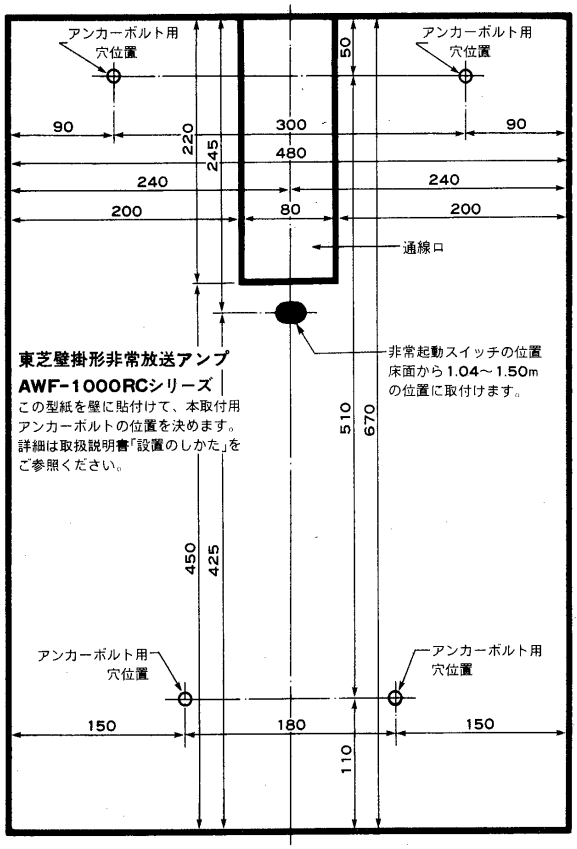
●本機の電源(AC100V)は蓄電池設備の充電電源となりますので下図のように専用回路とし開閉器には消防設備専用である旨の表示が必要です。



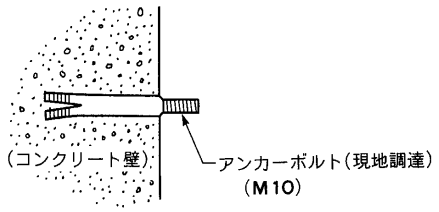
設置のしかた

■取付位置の決定

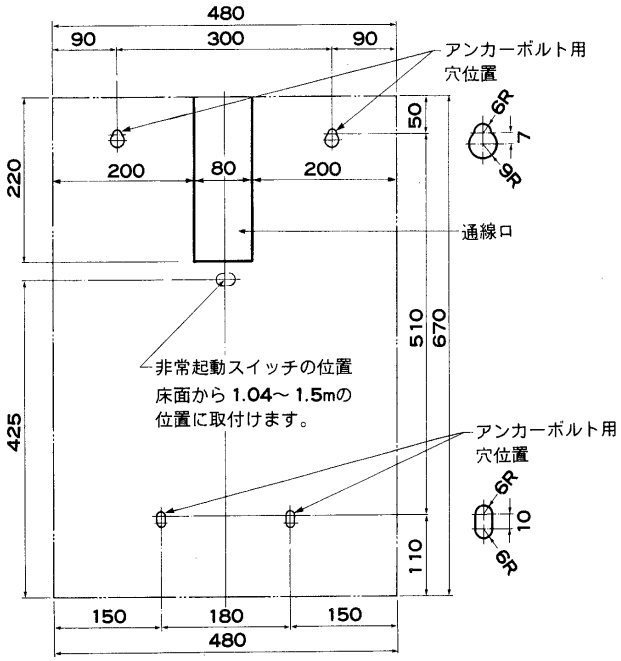
①付属の取付用型紙を、非常起動スイッチの位置が床面から1.04m～1.50mの所にくるように、壁に貼付けます。



②取付用型紙の「アンカーボルト用穴位置」に合わせて4ヶ所にアンカーボルトを打ち込みます。
（適合アンカーボルトはM10です。）

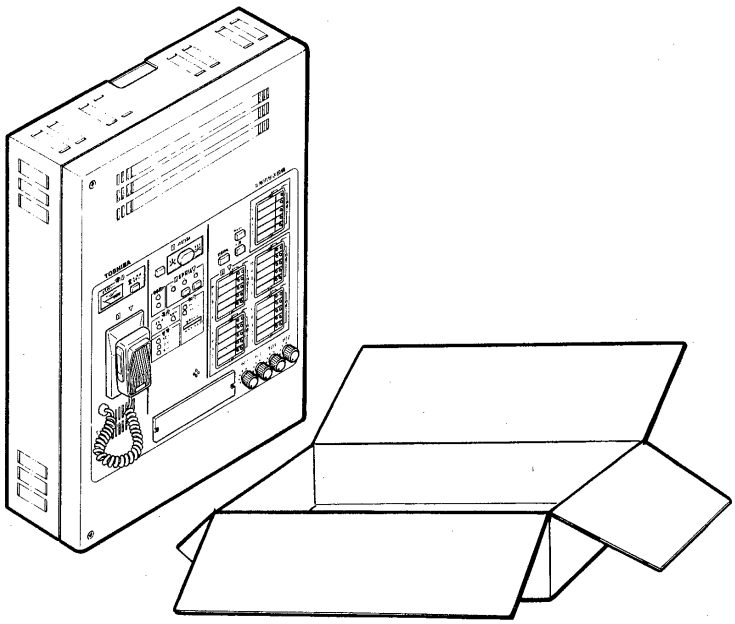


取付寸法図

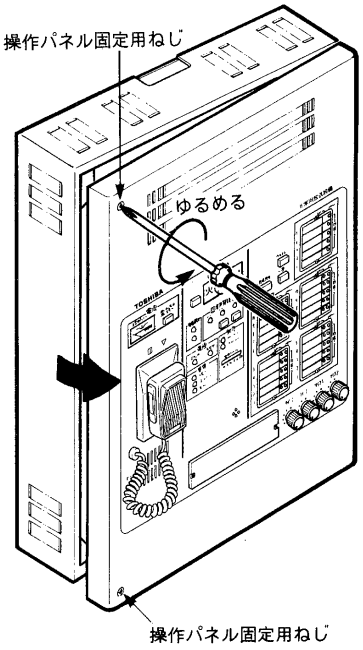


■設置のしかた

①梱包箱から本体を取り出します。付属品、予備品など、失くさないよう注意してください。

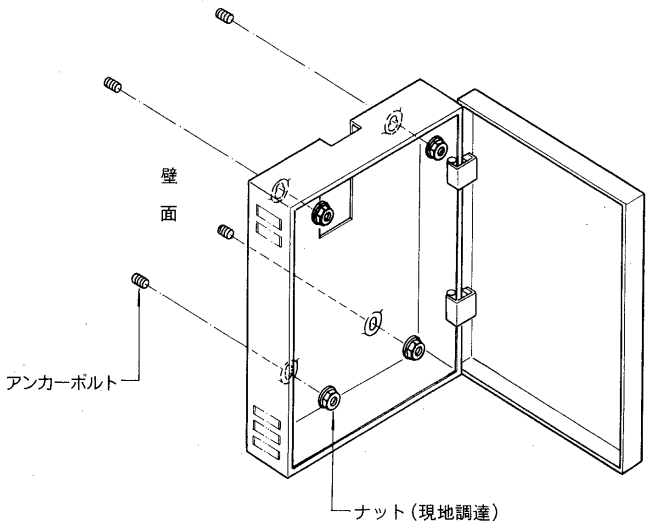


②操作パネルを固定しているねじ2本をゆるめ、操作パネルを矢印の方向に開けます。



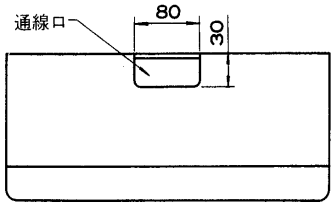
＜生産完了 2006年02月09日＞

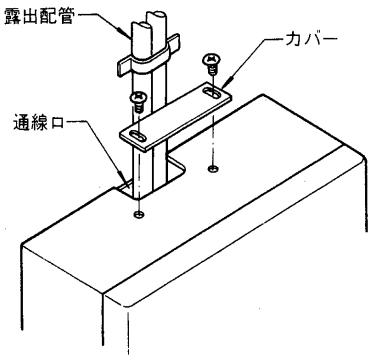
③壁面に打ち込んだアンカーボルトに本体の4ヶ所の取付穴を通し、ナットで固定します。



④スピーカ、外部機器の接続をします。（詳細は〝接続のしかた〟をご参照ください。）

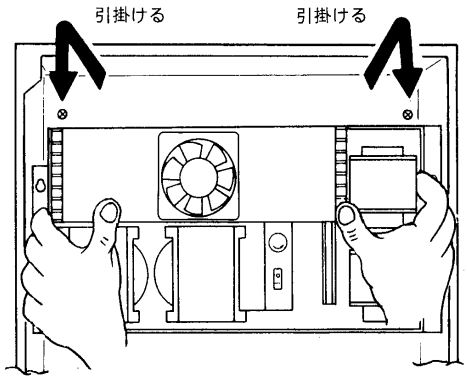
●露出配管のときは、本体上部の通線口から配線を引き込みます。引き込んだ後はカバーですきまをふさぎ、ねじ止めして固定してください。

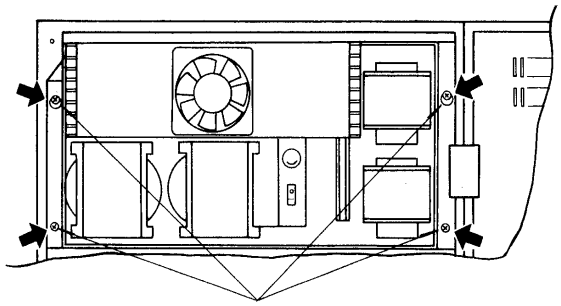




2本のねじをゆるめ、カバーをスライドさせます。

⑤別売の電力増幅器ユニットを本体の2ヶ所のねじに引掛けて固定し、4ヶ所でねじ止めします。

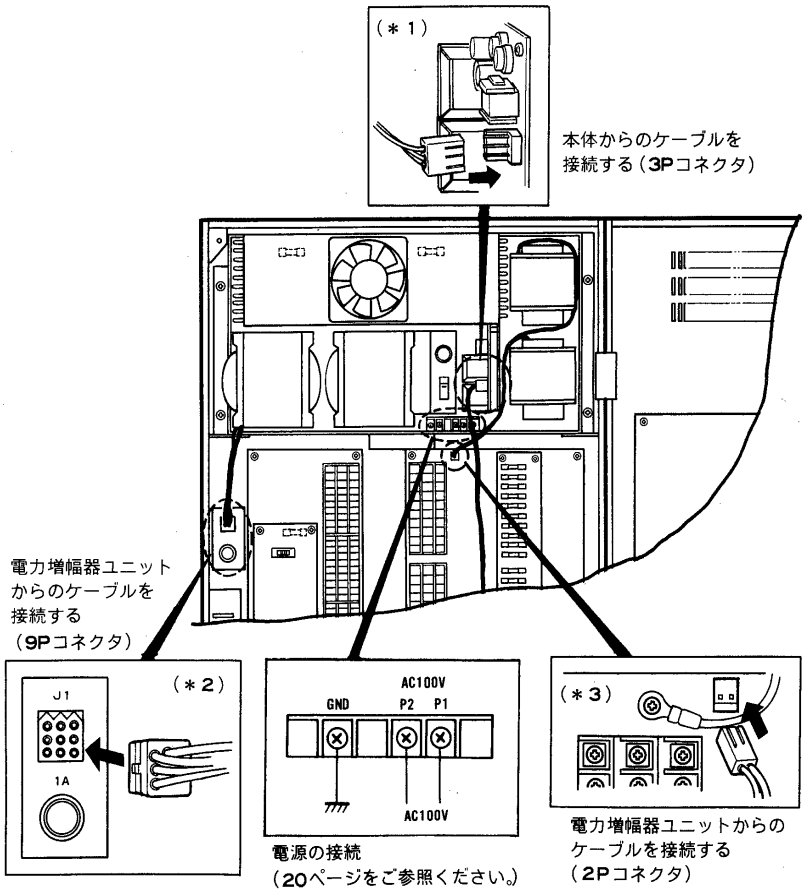




ねじ止めする

⑥電力増幅器ユニットからのケーブルおよび本体からのケーブルをコネクタで接続します。
（（＊1）～（＊3）の3ヶ所）

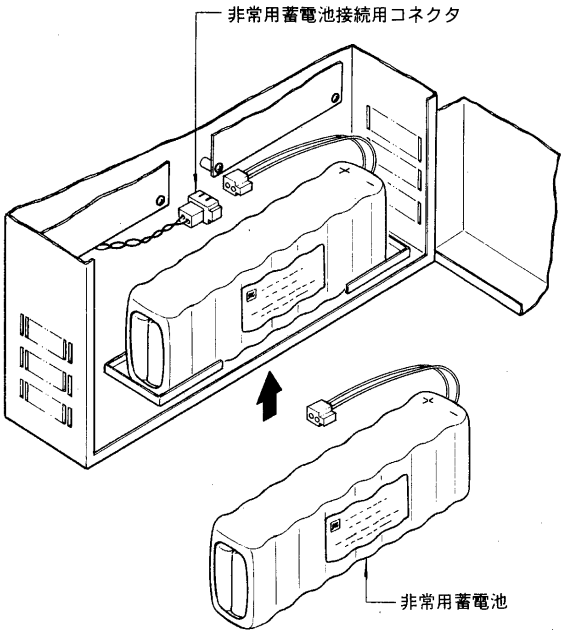
ご注意 1ヶ所でも接続を忘れると正常に動作しません。必らず3ヶ所忘れずに接続を確認してください。



⑦電力増幅器ユニットの電源入力端子に電源（AC100V）を接続します。（上図参照）

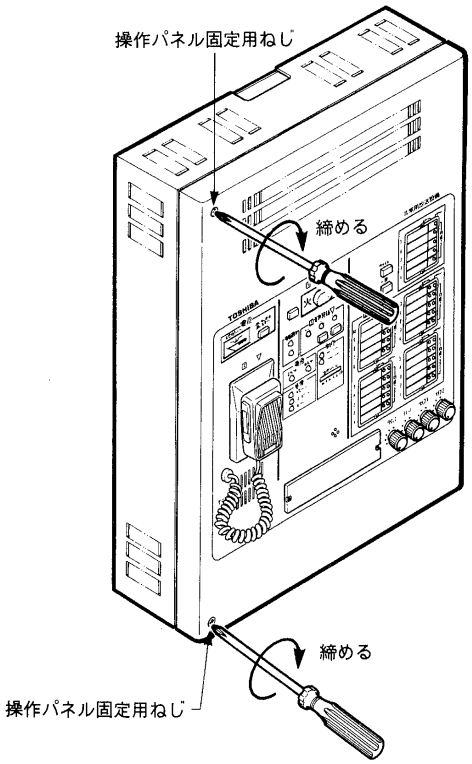
⑧非常用蓄電池を取付けます。

●非常用蓄電池（別売）は、収納部に図のように収納しコネクタで確実に接続してください。極性がありますので同じ線の色どおしを合わせて接続してください。また、接続時コネクタピン間をショートさせますと、大変危険ですからご注意ください。



●非常用蓄電池はお買いあげのときまたは、試験放送（10分程度使用した場合）などでお使いになった場合、充電は48時間程度で満充電となります。

⑨操作パネルを閉め、操作パネル固定用ねじで固定します。



組み込みユニットの取付けかた

■本機は別売のユニットを組み込んで使用することができます。

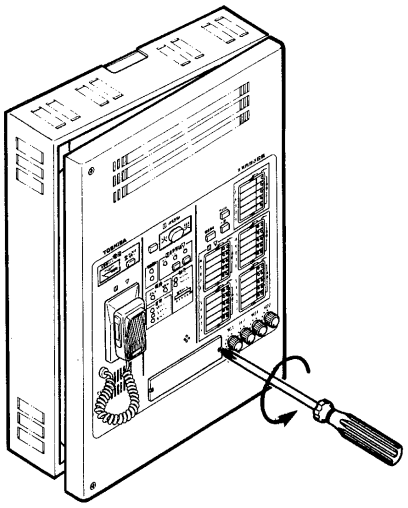
組み込み可能なユニットは次の機種です。

AM・FMラジオチューナユニット（形名：ARU－2200AF）

オートリバースカセットユニット（形名：ATU－1100C）

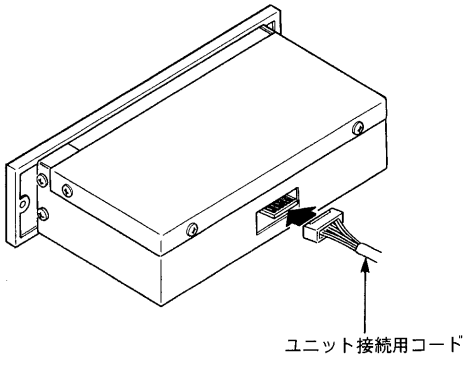
■取付けかた

①本体のユニット収納部はブランクパネルでカバーされています。このブランクパネルを止めているねじ2本をドライバーではずしてください。

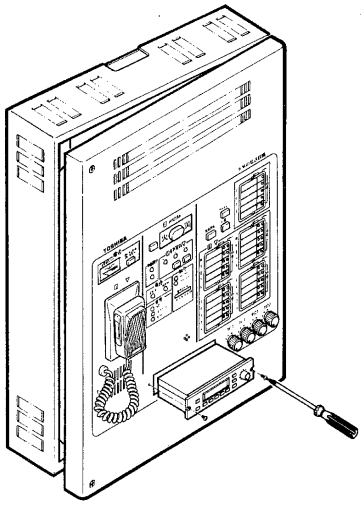


②ブランクパネルの裏に固定されている1本の接続用コード(7P)を組み込むユニットに接続してください。

（ARU-2200AFの例）



③ユニットを本体のユニット収納部に差し込み、ねじ2本で本体パネルに固定してください。



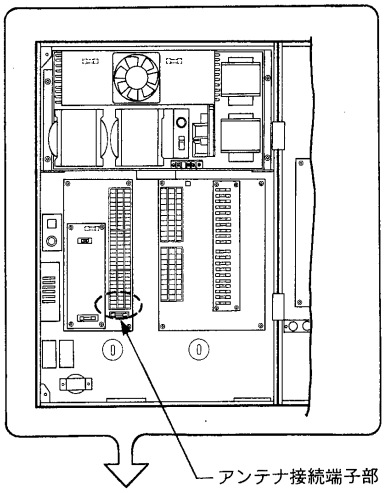
④ラジオチューナユニットを組み込んだ場合は必ず外部アンテナを設置してください。

ご注意

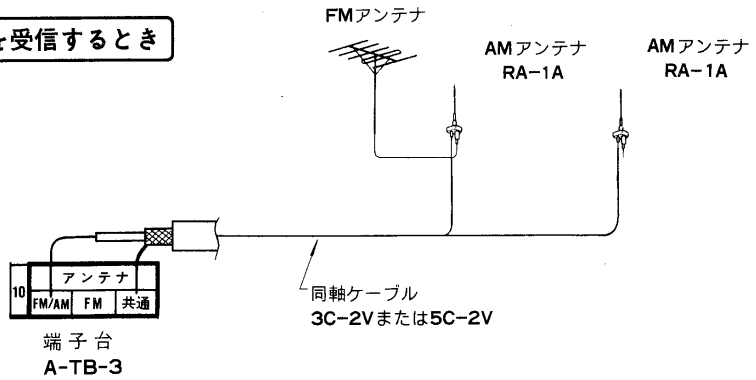
チューナユニットを取付ける場合はあらかじめ外部アンテナを下記の〝アンテナの接続のしかた〟に従って接続してください。
チューナユニットに付属のAM用ループアンテナは本機では使えません。

アンテナの接続のしかた

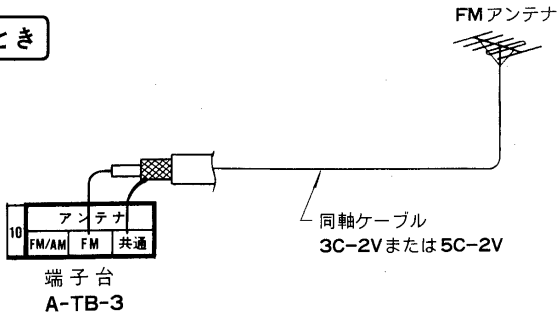
●ラジオチューナユニットを組み込んでご使用のときは受信用の外部アンテナが必要です。
内部の端子台A-TB-3の10のアンテナ端子にラジオ用アンテナを接続してください。



AMのみまたはAMとFMを受信するとき



FMのみ受信するとき



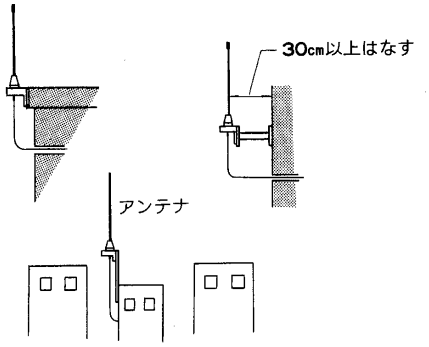
＜生産完了 2006年02月09日＞

外部アンテナの設置、配線についてのご注意

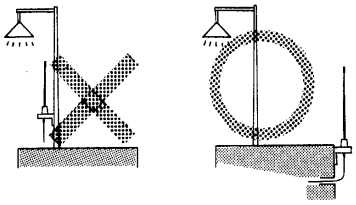
良好に受信し、外来ノイズの影響をうけないために下記の事項に注意してください。

①見通しのよいところに設置してください。

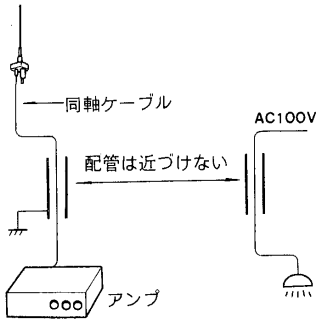
- 壁面に取り付けるときは図のようにエレメントを屋上から出すか、やむを得ず壁面に沿って取りつけるときは壁面より30cm以上離して取りつけてください。（下に向けたり水平にしないでください。）
- まわりに高い建物がある場合は図のように見通しのよい高いところに設置してください。



②水銀灯や街路灯などからはなるべくはなして設置してください。点灯時雑音の入る原因となります。

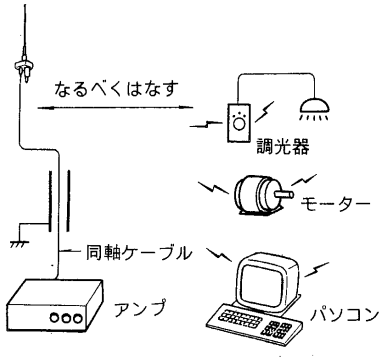


③アンテナ線は同軸ケーブルを使用し、AC100Vラインとは別配管にしてください。また配管は必ずアースしてください。



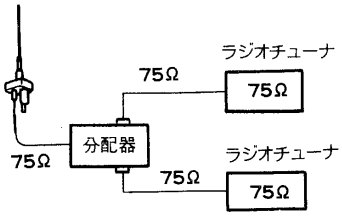
④配管からアンプ(ラジオ)までのアンテナケーブルの配線方法について

- アンテナケーブルは調光器ライン、パソコン、モーターなどのノイズ源の近くを通過しないように配線してください。



⑤アンテナ線を分配するときは必ず、分配器を使用してください。

- 分配器はAM.FMの周波数帯域(525～1605KHz, 76～90MHz)で損失の少ないものをご使用ください。



平衡入力にする方法

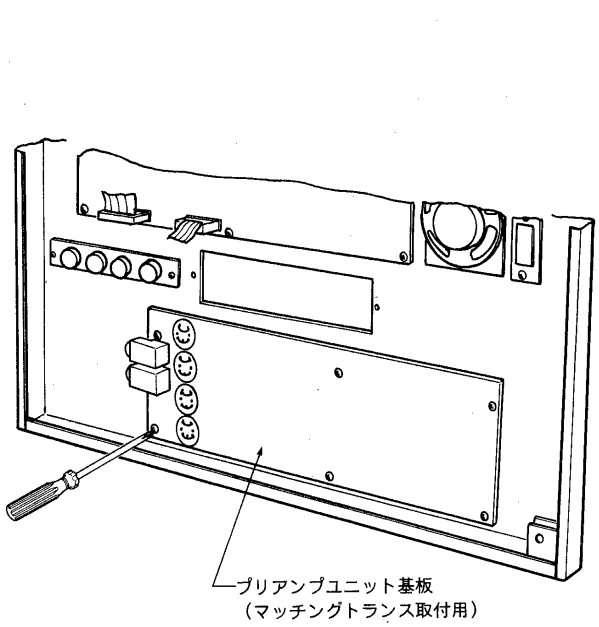
■マイク１、マイク２、時報チャイムおよびライン１入力を平衡入力にするとき

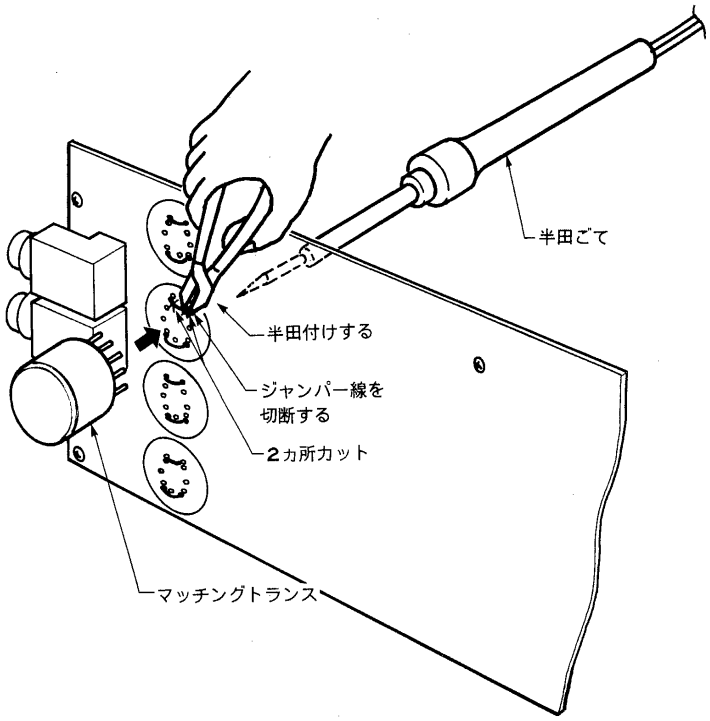
●本機のマイク１入力、マイク２入力、時報チャイムおよびライン１入力は不平衡形になっています。
コードを延長させて使用するときは、別売のマッチングトランス（形名：FB-1342）により入力回路を、平衡回路にしてください。

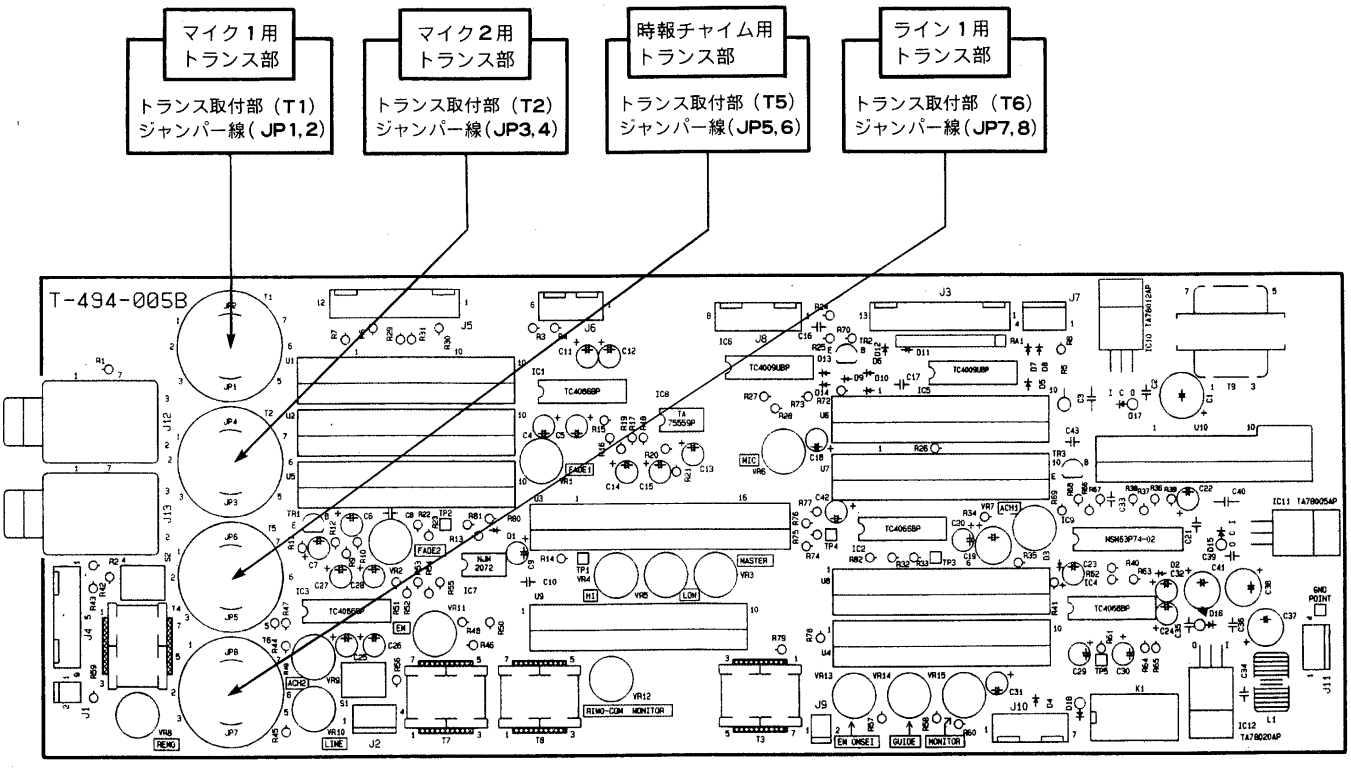
●マッチングトランスの取付方法

①プリアンプユニット基板を止めているねじ６ヶ所をはずします。

②部品面側のジャンパー線２本を２ヵ所基板面より出ないようにニッパー等で切断し、別売のマッチングトランス（形名：FB-1342）を図のように基板に差し込み半田付けをしてください。







プリアンプユニット基板

接続のしかた

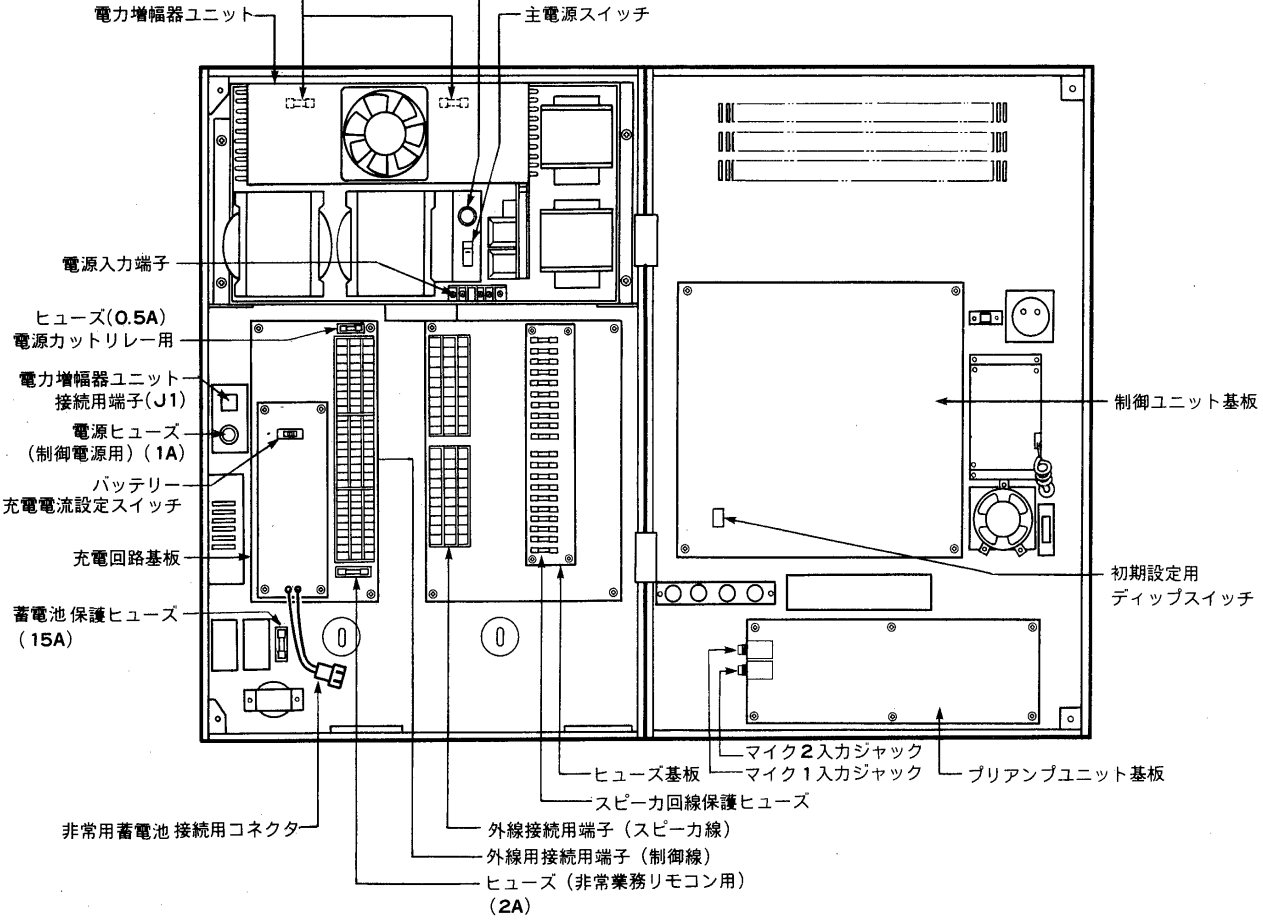
■内部配置図

機　種	容　量
AWH- 600PA	5A
AWH-1200PA	7A
AWH-2400PA	15A

パワートランジスタ保護ヒューズ（内部にあります）

機　種	容　量
AWH- 600PA	3A
AWH-1200PA	4A
AWH-2400PA	7A

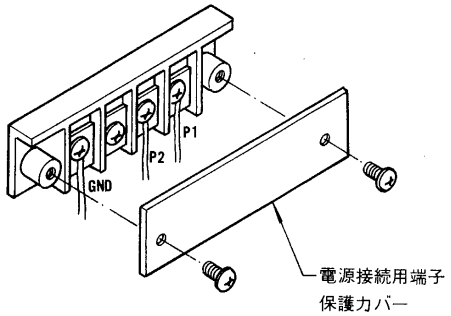
電源保護ヒューズ

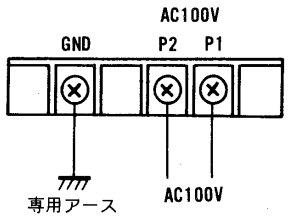


※本図は、AWH-1020RCとAWH-2400PAを組み合わせた場合の図です。

■電源とアースの接続

●電源接続用端子保護カバーをはずし、電源線を接続します。





ご注意

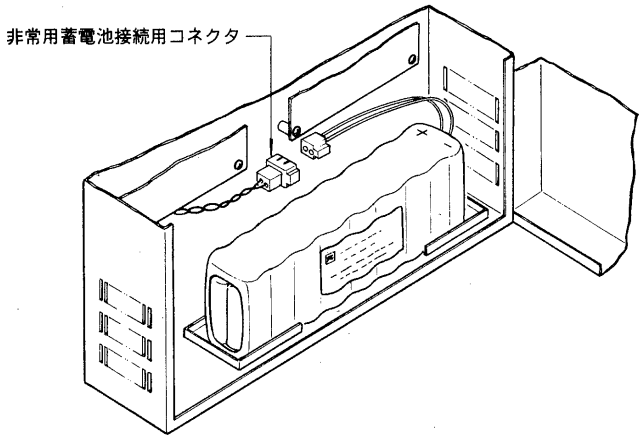
- ●接続の際には、必ず分電盤のスイッチおよび、本機の主電源スイッチを「切」にしてください。
- ●本機には電源ケーブルは付属しておりません。
- ●電源は分電盤より専用の開閉器を設けて専用回路（非常用放送設備）として配線してください。他設備と共用のＡＣコンセントから電源を供給することはしないでください。
- ●本機は必ず第３種接地工事以上で接地してください。

■非常用蓄電池の接続

●お求めの東芝壁掛形非常放送アンプには別売の非常用蓄電池が必要です。電力増幅器ユニットにより適合する非常用蓄電池をお求めください。

電力増幅器ユニット形名		適合非常用蓄電池形名	電　圧	容　　量	充電電流
AWH－ 600PA	(本体単独使用時)	NBT－2000	DC24V	1.65Ah/5HR	50mA以下
	(非常業務リモコン接続時)	NBT－3000	DC24V	3.5 Ah/5HR	117mA以下
AWH－1200PA		NBT－3000	DC24V	3.5 Ah/5HR	117mA以下
AWH－2400PA		NBT－4000	DC24V	6.0 Ah/5HR	166mA以下

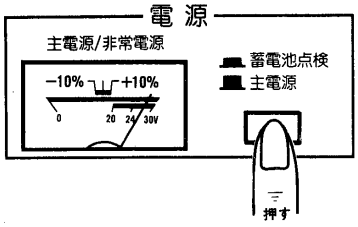
●本体からのコネクタと接続します。



●充電装置は自動充電方式になっております。充電は試験放送などで蓄電池を10分程度使用した場合、48時間程度で満充電となります。※1

●蓄電池点検スイッチでチェックしてください。
非常用電源電圧計の指針が24～30V線の目盛の間に振れることを確認してください。
この範囲内に振れないときは、寿命ですのですぐに新品と交換してください。
交換はお近くの工事店または東芝お客様ご相談センターにご依頼ください。

●続けてチェックする場合はスイッチから一度指を離し約5～6秒たってからもう一度スイッチを押してください。



※1　本機はトリクル充電方式を採用しており常時充電しています。

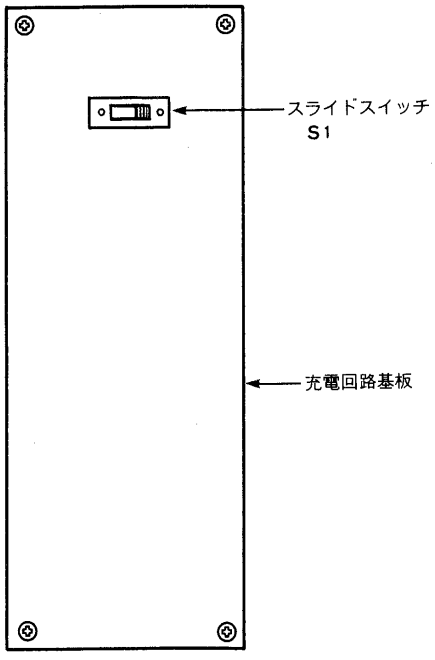
ご注意

●非常用蓄電池の標準寿命は4年です。非常時に機器を正しく動作させるために交換時期を守ってください。

■蓄電池の充電電流の設定

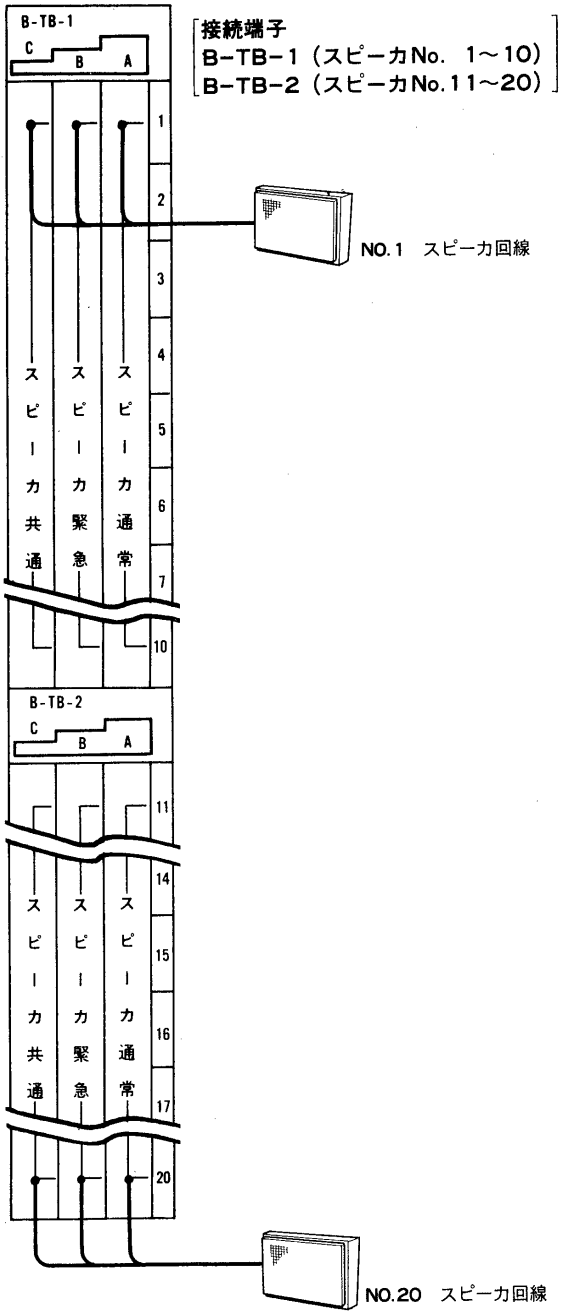
使用する蓄電池の容量に応じて充電電流を必ず設定してください。
充電回路基板上のスライドスイッチ(S1)(右図参照)で、次のように設定してください。(出荷時はNBT-2000用に設定してあります。)

使用蓄電池	NBT-3000	NBT-4000	NBT-2000
スイッチ設定	左側	中央	右側 (出荷時)



■スピーカの接続

- 本機はライン電圧100V ハイ・インピーダンススピーカ専用です。ロー・インピーダンススピーカやライン電圧の異なるものは接続できません。
- 消防法では各階別３線式配線（音量調節器を設けない場合は２線式配線）となっています。



●アンプとスピーカ間の延長可能距離

機種＼線径(mm)	φ0.9	φ1.0	φ1.2	φ1.6	φ2.0	φ2.6
AWH－ 600PA	290 m	360 m	560 m	1 km	1.5 km	2.6 km
AWH－1200PA	145 m	180 m	280 m	500 m	770 m	1.3 km
AWH－2400PA	70 m	90 m	140 m	250 m	380 m	650 m

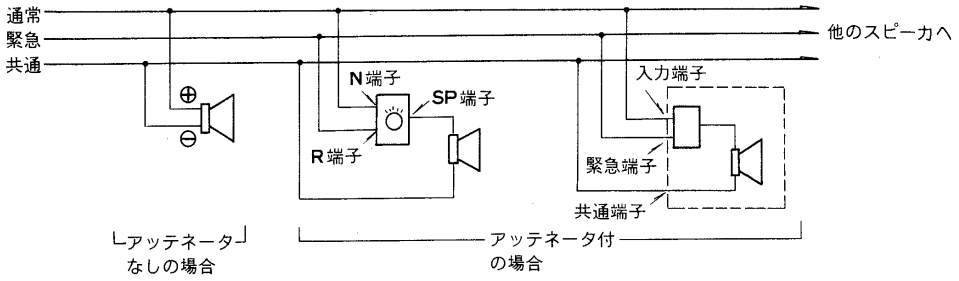
- 線路抵抗(ループ)がアンプの負荷インピーダンスの10%になる距離のめやすです。
- スピーカ回線に使用する電線は耐熱電線等、消防法で定められている基準に適合した電線を使用してください。

●スピーカ回線の短絡保護用ヒューズとして出荷時0.3Aが取り付けてあります。（このときの１回線あたりのスピーカ容量は最大30Wです。）１回線あたりのスピーカ容量が30Wをこえる場合は下表によりヒューズを交換してください。最大100Wまで可能です。

１回線100Wをこえる場合は2回線以上にわけてください。

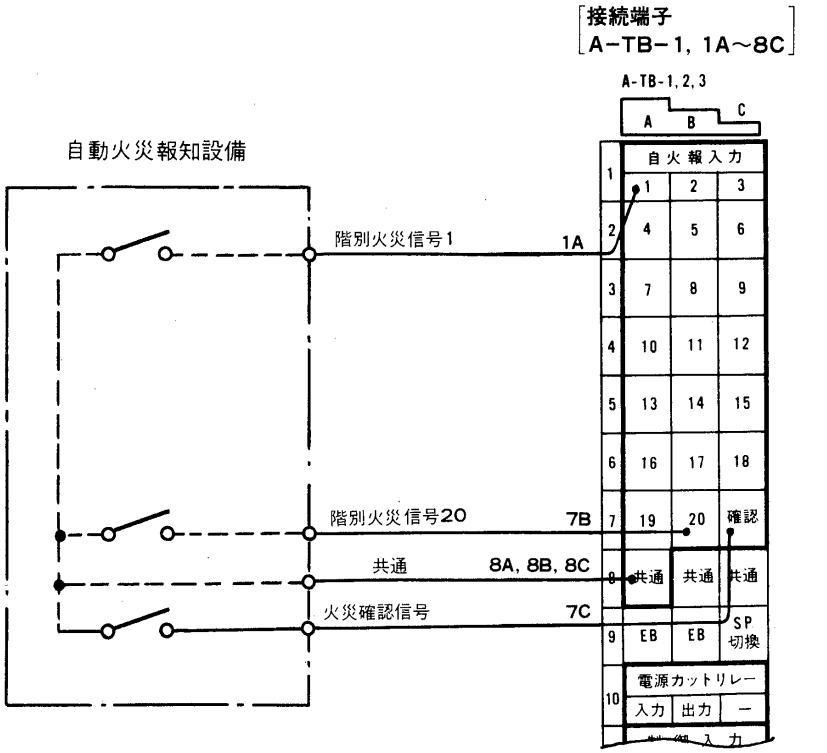
ヒューズ容量	１回線あたりの最大スピーカ容量
0.3A	30W
0.5A	50W
１A	100W

- スピーカ回線はアッテネータ付の場合は３本、アッテネータなしの場合は２本の配線が**回線毎に必要です。**
アッテネータ付、アッテネータなしそれぞれの場合のスピーカへの接続方法は下図のとおりです。



■自動火災報知設備との接続

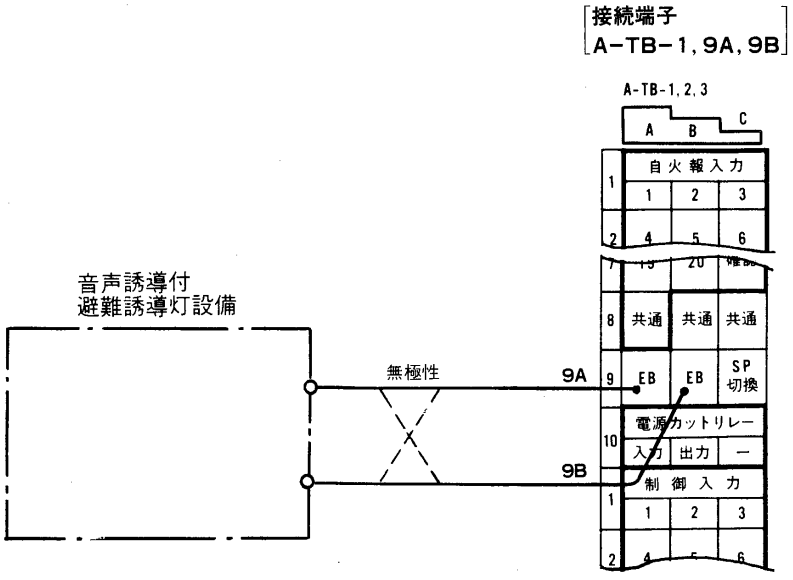
●自動火災報知設備からの階別火災信号（無電圧メイク接点）、および火災確認信号(無電圧メイク接点)の接続のしかたは、右図のとおりです。



（10回線用には自火報入力11～20はありません。）

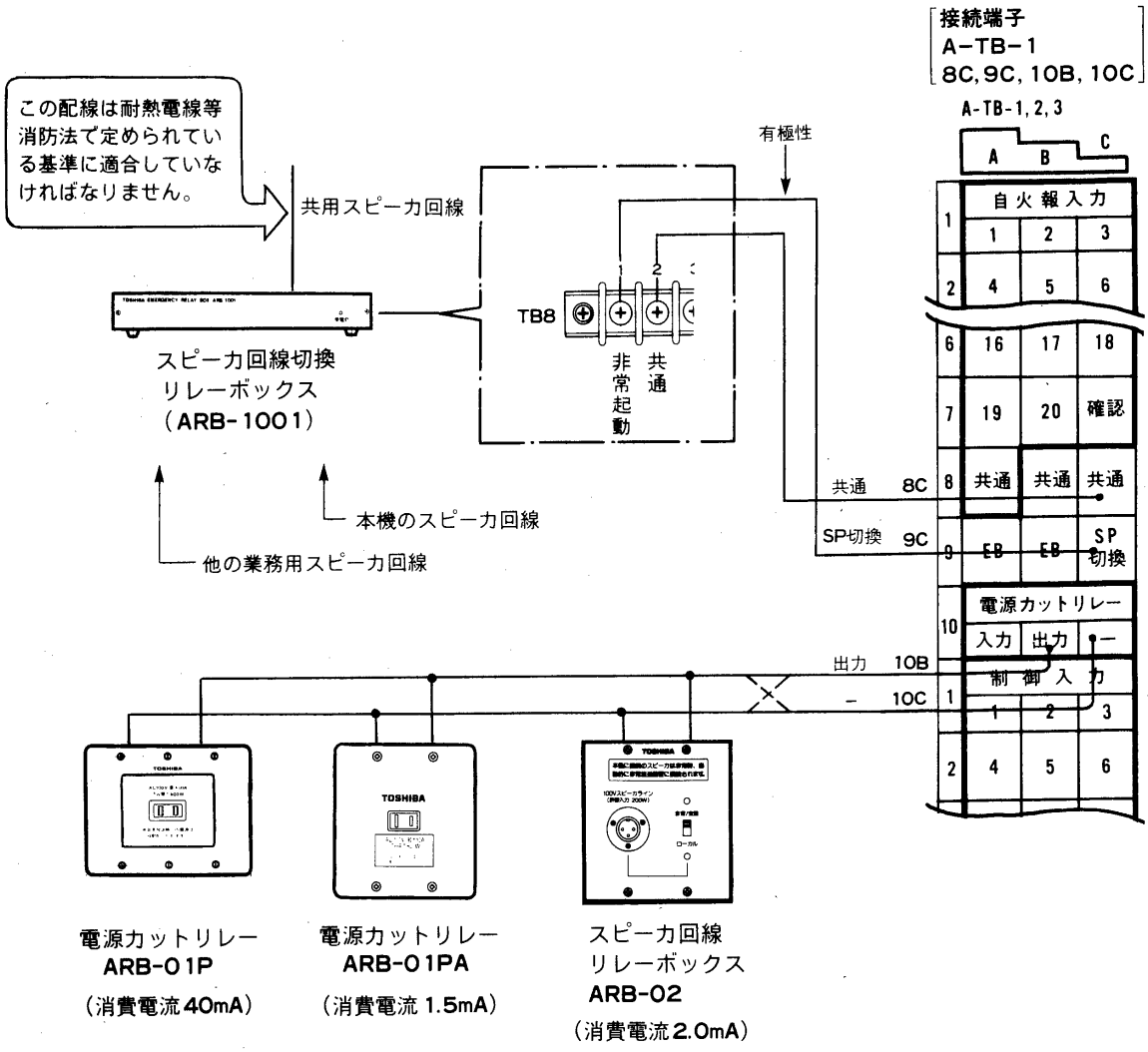
■音声誘導付避難誘導灯設備との接続

●非常放送設備で音声警報放送中は、音声誘導付避難誘導灯設備の音声誘導放送は、止めなければなりません。このため非常放送設備のＥＢ端子を音声誘導付避難誘導灯設備に右図のように接続してください。



■電源カットリレー、スピーカ切換ボックスとの接続

●非常放送時にローカルアンプの電源を断(カット)する電源カットリレーおよびスピーカを業務用と共用し非常放送時にスピーカ回線を非常放送側に切りかえるスピーカ回線切換リレーボックスは下図のように接続してください。



ご注意

電源カットリレー出力の電流容量は、0.5Aですので接続機器の合計消費電流を0.5A以下としてください。

■非常業務リモコンとの接続

●非常業務リモコンは、最大２台まで接続できます。

●接続可能な非常業務リモコンは、ARF-1000RCシリーズのみです。

ご注意

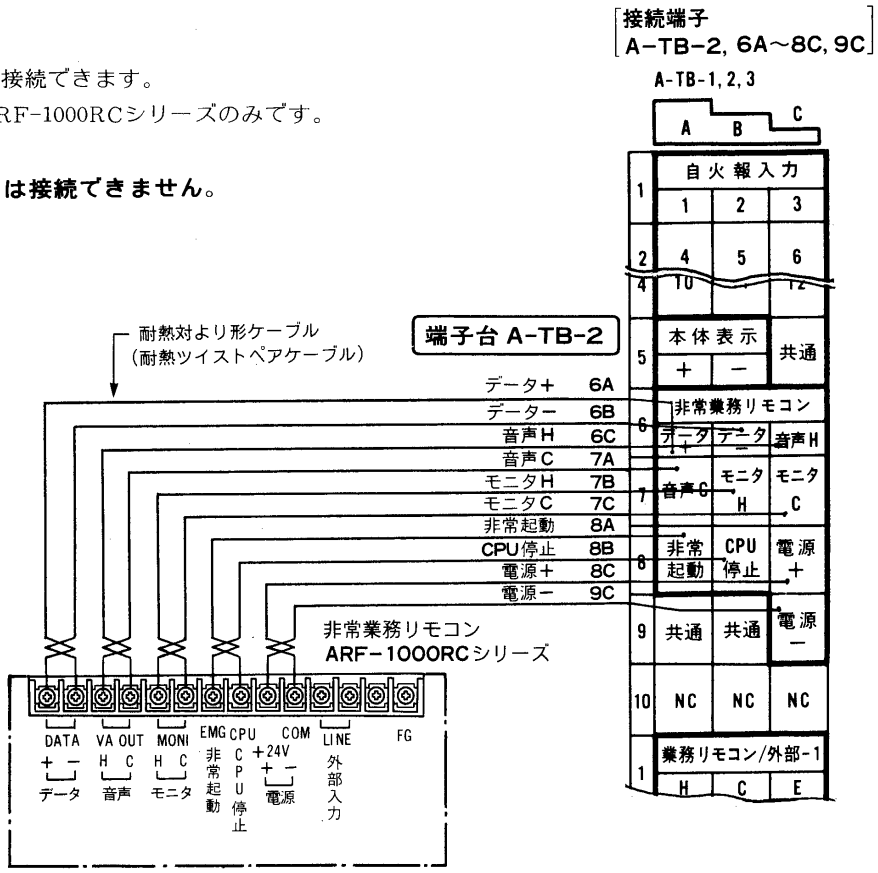
下記シリーズの非常業務リモコンは接続できません。

ARF-1000Rシリーズ
ARF-1001Rシリーズ
ARF-1002Rシリーズ
ARF-1000RAシリーズ
ARF-1000RBシリーズ
ARF-1003Rシリーズ
ARF-1004Rシリーズ

● ２台目の非常業務リモコンも同様に接続します。

ご注意

非常業務リモコンを２台接続する場合は、ディップスイッチの変更（2ヶ所）が必要です。（変更のしかたは29、32、33ページを参照してください。）



●配線は必ず**耐熱対より形ケーブル(耐熱形ツイストペアケーブル)**をご使用ください。
（２本ずつが撚ってある耐熱ケーブル）

●ツイストペアケーブルを使用しないと誤動作や、音声への伝達ノイズとびこみの原因となりますので必ずツイストペアケーブルを使用してください。

●許容線路抵抗は下表のとおりです。線路抵抗値が許容線路抵抗以内になるように線径を選んでください。

●電源線の線路抵抗が１対では許容値をオーバーする場合は６対以上（４対は制御用）のケーブルを使用し、電源として２対以上をパラ接続して許容線路抵抗値以内におさまるようにケーブルを選定してください。

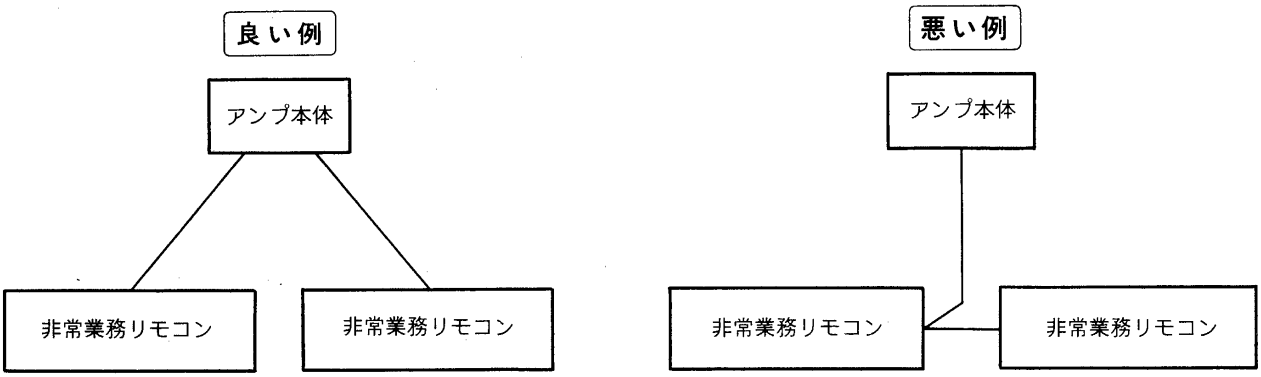
許容線路抵抗値

電源線（１対）	制御線（４対）
３Ω （１本あたり1.5Ω）	50Ω （１本あたり25Ω）

耐熱対より形ケーブルの線路抵抗値(1線あたり)

線経	抵抗値
φ0.65mm	約58Ω/km
φ0.9mm	約30Ω/km
φ1.2mm	約17Ω/km
φ1.6mm	約10Ω/km

●非常業務リモコンを２台接続するときは、リモコンで渡り配線はせずに必ず本体で分岐し、各リモコンへ配線するようにしてください。



■マイク１、２入力の接続

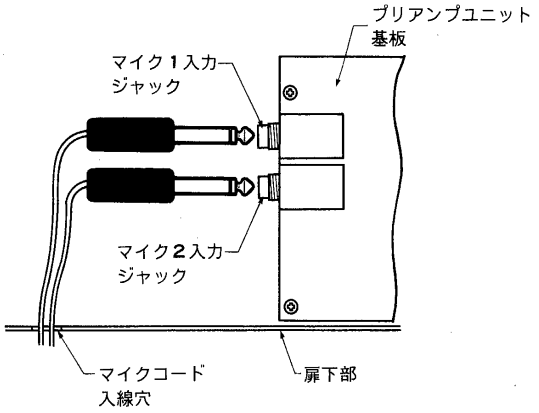
●マイク１、２入力およびライン２、３入力は、不平衡形になっています。

●マイク１、２入力は、扉内部下部のプリアンプユニット基板上のマイク入力ジャックにプラグを接続してください。（マイクは最大２本接続できます。）

●マイクコードを約10ｍ以上伸ばして使用する場合は、マッチングトランス（別売、形名：FB1342）を使用し、入力回路を平衡回路に変更してください。
（マッチングトランスの取付は、19ページをご参照ください。）
マイクも平衡形のものを使用してください。

●前面の音量調節ツマミで調節できます。
マイク１：マイク１入力音量調節ツマミ㊲
マイク２：マイク２入力音量調節ツマミ㊳

（−64dB 600Ω 不平衡）
（別売マッチングトランス取付により平衡可）



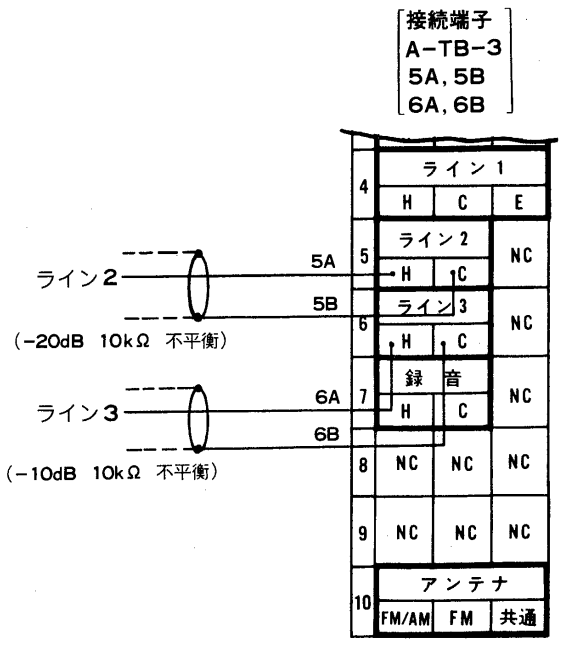
■ライン２、ライン３入力の接続

●ライン２、３入力は、端子台に接続してください。

●前面の音量調節ツマミで調節できます。
ライン２：ライン２入力音量調節ツマミ㉟
ライン３：ライン３入力音量調節ツマミ㊱

ご注意

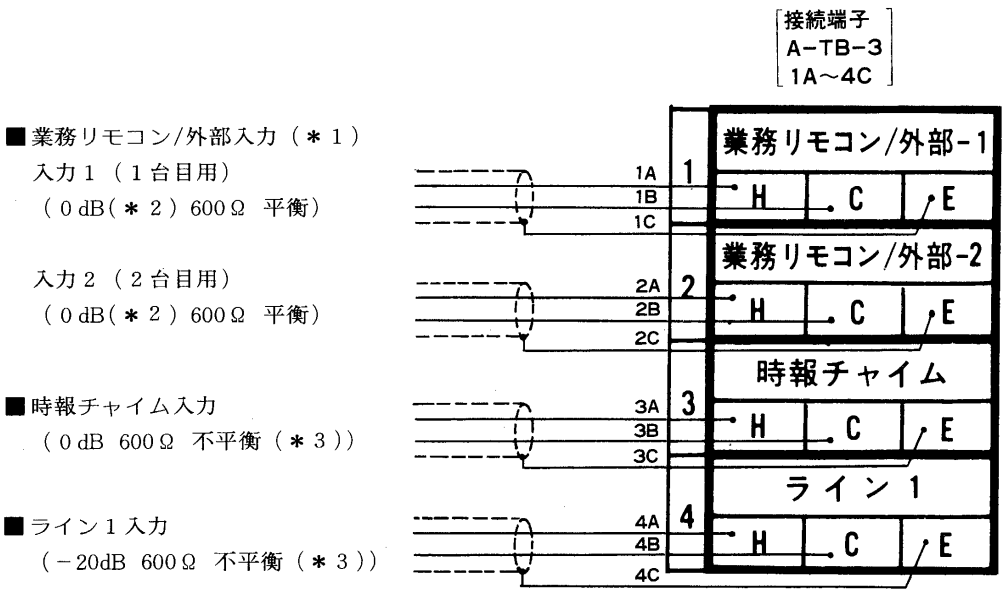
ライン２、３入力は平衡入力に変更することはできません。



■業務リモコン/外部入力、時報チャイム入力、ライン１入力の接続

●音声入力

●各音声入力を端子台に接続してください。



（＊１）業務リモコンを２台まで接続可能です。音声はミキシングになります。

（＊２）入力レベルを－20dBに変更できます。１、２入力両方とも同時に変わります。
（変更方法…33ページ参照）

（＊３）別売のマッチングトランス（形名：FB-1342）取付けにより平衡入力に変更できます。(マッチングトランスの取付は19ページをご参照ください。)

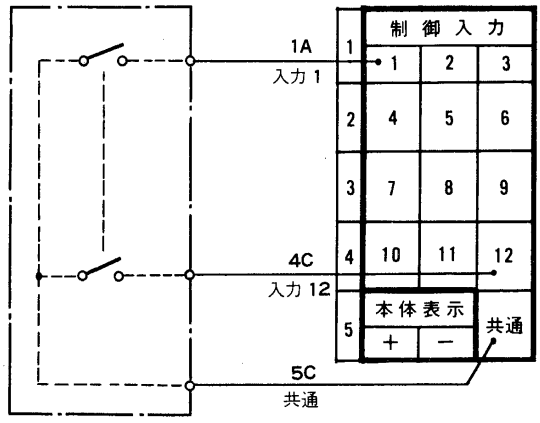
●制御入力

●制御入力（無電圧メイク接点）を端子台に接続してください。
音声入力、放送先回線、放送モードは下表のように出荷時設定してあります。
任意に設定を変更することができます。（変更する場合は、別冊の書き込みのしかたを参照ください。）

（出荷時の設定）

制御入力番号	音声入力	放送先回線番号	放送モード
1	業務リモコン／外部入力	1	通常モード
2		2	
3		3	
4		4	
5		5	
6		6	
7		7	
8		8	
9		9	
10		10	
11	時報チャイム	一 斉	緊急モード
12	ライン１	一 斉	通常モード

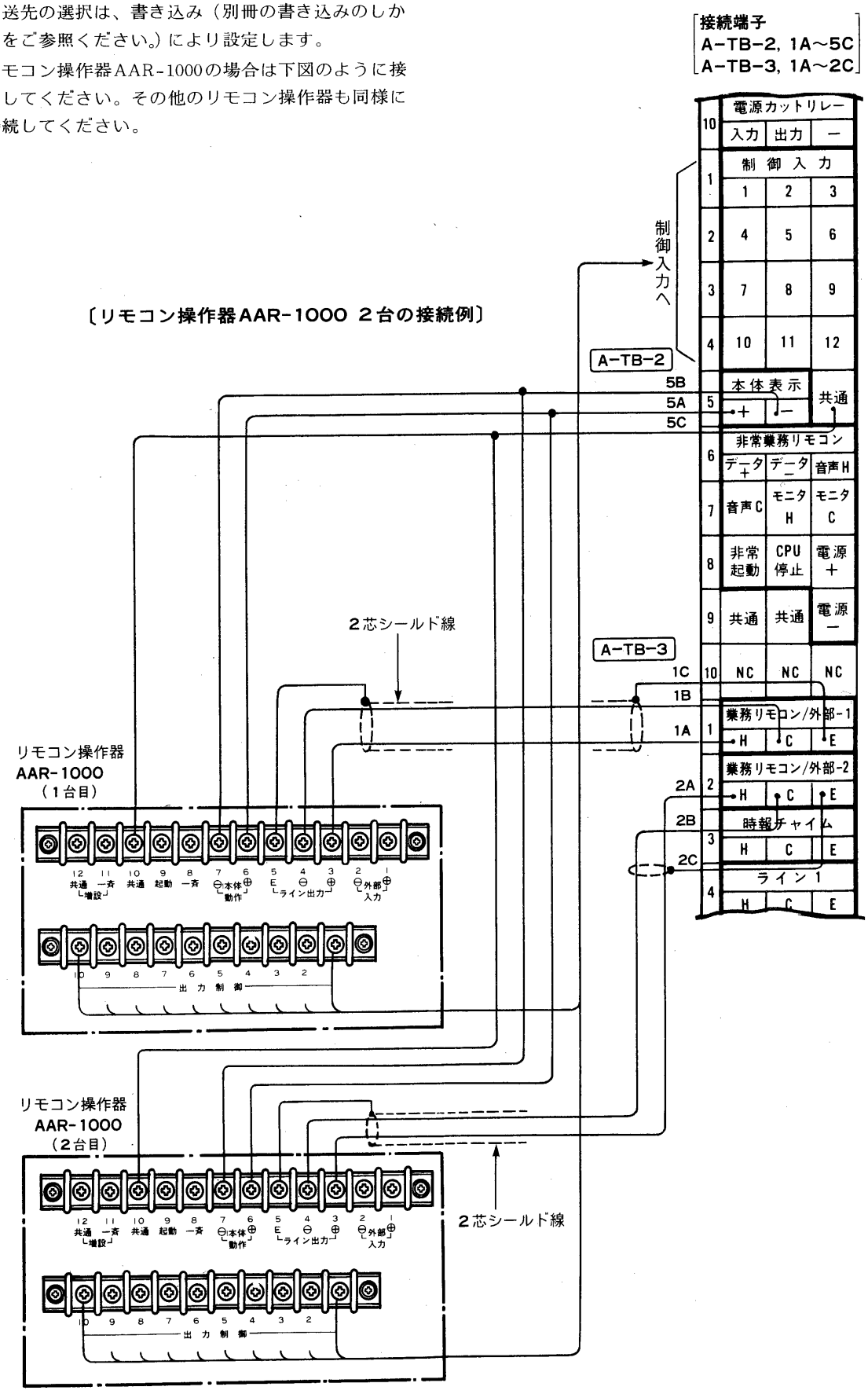
[接続端子 A-TB2, 1A～4C, 5C]



■業務リモコンとの接続

- ●業務リモコンは、最大２台まで接続できます。
- ●業務リモコンの音声出力レベルは、0dB 出力に設定してください。
  （業務リモコン入力／外部入力は、出荷時0dB 入力に設定してあります。）
- ●放送先の選択は、書き込み（別冊の書き込みのしかたをご参照ください。）により設定します。
- ●リモコン操作器AAR-1000の場合は下図のように接続してください。その他のリモコン操作器も同様に接続してください。

〔リモコン操作器AAR-1000 ２台の接続例〕



初期設定

■蓄電池の充電電流の設定

➡ 21ページの蓄電池の充電電流の設定をご参照ください。

■非常業務リモコンの接続台数の設定

●非常業務リモコンを接続する場合は、その台数により、各スイッチの設定が必要となります。

制御ユニット基板の初期設定ディップスイッチの設定

➡ 下図①をご参照ください。

プリアンプユニット基板のスイッチ設定

➡ 33ページを参照ください。

■発報連動停止スイッチの設定

●感知器からの起動時の連動条件を設定します。

➡ 12、36ページを参照ください。

■発報放送／火災放送のスイッチ

●発信機・非常電話起動または、手動起動時に、発報放送後、火災放送に移るか、発報放送なしに火災放送に移るかの設定が必要となります。

制御ユニット基板の初期設定ディップスイッチで設定します。

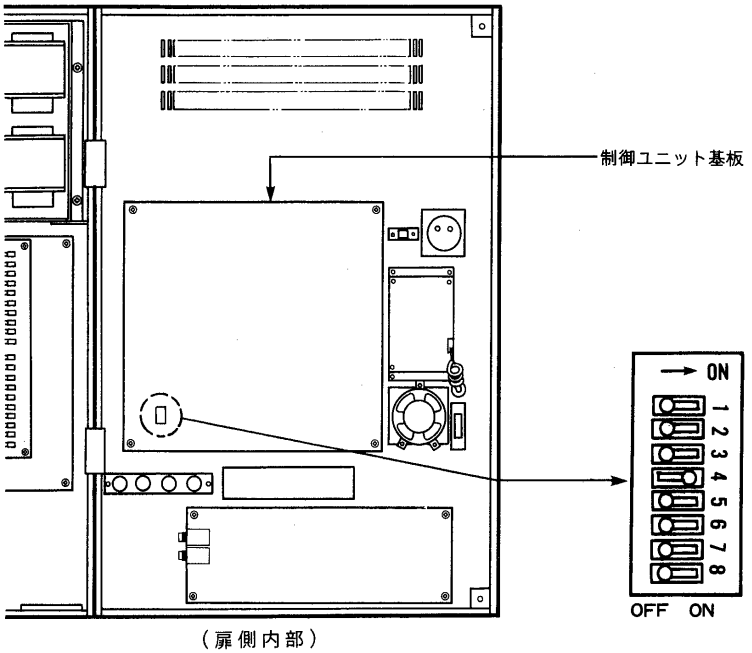
➡ 下図②および36ページをご参照ください。

■警報ブザー音の設定

●リモコン通信異常および蓄電池異常時の警報ブザー音の鳴り時間を連続または、一定時間(２分)鳴動後自動停止のどちらかに設定できます。

制御ユニット基板の初期設定ディップスイッチで設定します。

➡ 下図③をご参照ください。



（扉側内部）

①非常業務リモコン台数の設定

スイッチ５、６で設定

スイッチ	5	6
リモコンなし（出荷時）	ＯＦＦ	ＯＦＦ
リモコン１台	ＯＮ	ＯＦＦ
リモコン２台	ＯＦＦ	ＯＮ

②発報放送／火災放送の設定

スイッチ１で設定

発報（発報放送後 火災放送）（出荷時）	ＯＦＦ
火災（発報放送なしに 火災放送）	ＯＮ

③警報ブザー音の設定

スイッチ２で設定

連　　続（出荷時）	ＯＦＦ
一定(２分)	ＯＮ

取付、接続が完了したら

●取付、接続が完了したら、次の手順で電源を投入し、動作の確認を行なってください。

①初期設定を行なってください。……29ページ参照

↓

②電力増幅器ユニットの主電源端子にAC 100Vを供給してください。

↓

③マイク扉内の［書き込み］キーと［0］キーを押しながら電力増幅器ユニットの主電源スイッチを「入」にしてください。（初期リセット）

……12、20ページ参照

●主電源表示灯⑫と充電中表示灯⑬が点灯します。

●主電源／非常電源電圧計が主電源の電圧を表示します。
（－10%～＋10%のほぼ中央を指示します。）

●異常表示灯が点灯しましたら、49ページに従って、チェックしてください。

④非常放送のしかた、業務放送のしかた（34～47ページ参照）に従って動作確認を行なってください。

出荷時は次のように初期設定されています。

(1) 非常放送

●手動による非常放送は階別制御方式、自火報連動による非常放送は直上階方式でいずれも1回線を1階として制御します。発報放送および火災放送メッセージには階の文節は入っていません。

●第1タイマおよび第2タイマは、各2分に設定されています。（37ページ参照）

(2) 業務放送

●非常業務兼用リモコンからの制御は本体と同じ1：1に対応します。

●業務放送の優先は、後取り優先に設定されています。

●ブロックスイッチ1～5にはNO.1～NO.5回線が1：1で設定されています。

●制御入力の設定は、下表のように設定されています。

制御入力	音声入力	放送先回線番号	放送モード
1	業務リモコン	1	通常モード
2	〃	2	〃
3	〃	3	〃
4	〃	4	〃
5	〃	5	〃
6	〃	6	〃
7	〃	7	〃
8	〃	8	〃
9	〃	9	〃
10	〃	10	〃
11	時報チャイム	一斉放送	緊急モード
12	ライン1	一斉放送	通常モード

⑤ご使用に合わせて設定、変更を行なってください。……〝書き込みのしかた〞（別冊）に従って書き込みをします。

設定、変更には次のような内容があります。

■非常放送について

●放送階選択スイッチの放送階別グループ化
●自火報連動時の放送階グループ化
●音声警報の階情報の挿入
●音声警報メッセージの英語の挿入
●第1タイマ、第2タイマの時間
●発報放送パターン
●放送階選択スイッチの解除の方法

■業務放送について

●放送の優先順位
●外部制御入力による放送先
●業務ブロックスイッチの放送先

＜生産完了 2006年02月09日＞
AWH-1200PA (30 / 52)

⑥ 書き込みが終ったら、書き込み内容に間違いがないか動作確認をしてください。

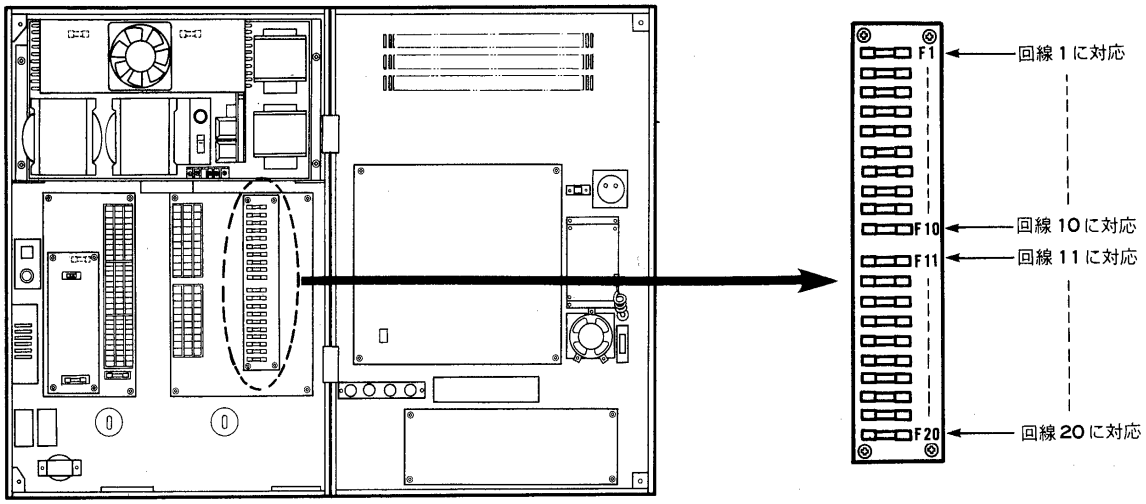
⑦ 非常業務リモコンをご使用の場合、リモコンからの動作確認を行なってください。

スピーカ回線保護ヒューズ溶断時の処置のしかた

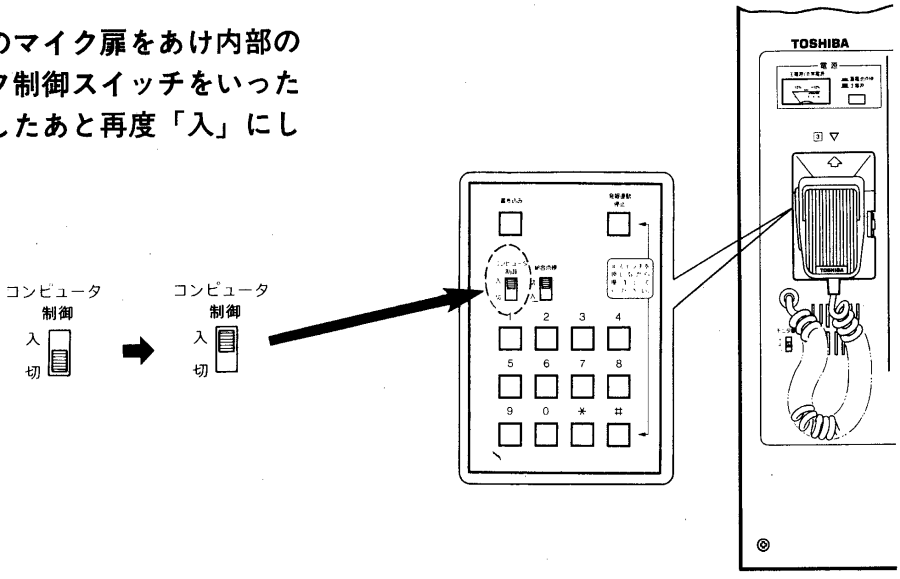
●スピーカ回線が短絡すると保護ヒューズが溶断します。
スピーカ回線保護ヒューズが溶断すると階別作動表示灯が点滅します。この場合は次の手順にて処置してください。

①機器は放送復旧状態にしてください。

②ヒューズ基板上にスピーカ回線保護ヒューズがありますので、階別作動表示灯が点滅している回線の溶断したヒューズを新品と交換してください。



③前面パネルのマイク扉をあけ内部のコンピュータ制御スイッチをいったん「切」にしたあと再度「入」にしてください。



④正常動作に復帰したことを機器を動作させて確認してください。

調節のしかた

プリアンプユニット基板上の半固定ボリュームおよびスイッチにより、各種の調節ができます。
（次ページをご参照ください。）

■非常業務リモコン接続台数の設定

非常業務リモコンを２台接続する場合は、非常業務リモコン台数設定スイッチＳ１を２台用に設定してください。

■業務リモコン／外部入力レベルの切換

業務リモコン／外部入力レベルは、出荷時 0dB に設定されていますので、－20dB で使用する場合は、レベル設定スイッチを －20dB に設定してください。

■各音声入力レベルの調整

マイク入力、時報チャイム入力等、各入力の音量レベルを半固定ボリュームで調整できます。
入力が大きすぎる場合は、このボリュームを調整してください。

●非常業務兼用マイクおよび非常業務兼用リモコンの音量も調整できますが、これらの音量は出荷時、定格（AC100V）でるよう調整されています。

これらの音量を調整する場合(特に小さくて大きくする場合)は、いま一度下記の事項の点検を行ってください。

①スピーカが過負荷になっていませんか……スピーカのワットの合計値はアンプの出力(ワット)合計値以下でなければなりません。

②スピーカアッテネータが正しく選定、接続されていますか……使用スピーカに適合したアッテネータが必要です。誤接続されると業務放送も影響をうけます。

■音質の調整

音質を調整したい場合は、低音用、高音用調整半固定ボリュームで調整してください。

■オートレベルダウン機能の調整

①本体マイク、マイク１、２の音声入力によるオートレベルダウン（ライン２、３および組み込みユニットの各放送レベルが 減衰する。） 機能が働いていない場合は、オートレベルダウン入力レベル調整を半固定ボリュームで行なってください。

②オートレベルダウンする（ライン２、３および組み込みユニットの放送）減衰量を調整したい場合は、オートレベルダウン出力レベル調整半固定ボリュームで調整してください。

プリアンプユニット基板 調整VR、SW配置図

非常業務リモコンの台数設定 SW

S1

1
2

非常業務リモコンを2台接続時NO. 1, 2とも右側にします。

業務リモコン/外部入力レベル設定SW

S2

−20dB　0dB

−20dBにする場合左側にします。

オートレベルダウン入力レベル用 VR

VR2

減衰させるマイク入力のレベルを調整できます。

オートレベルダウン出力レベル用 VR

VR1

減衰するライン2, 3ユニット入力のレベルを調整できます。

音質（高音用）調整 VR

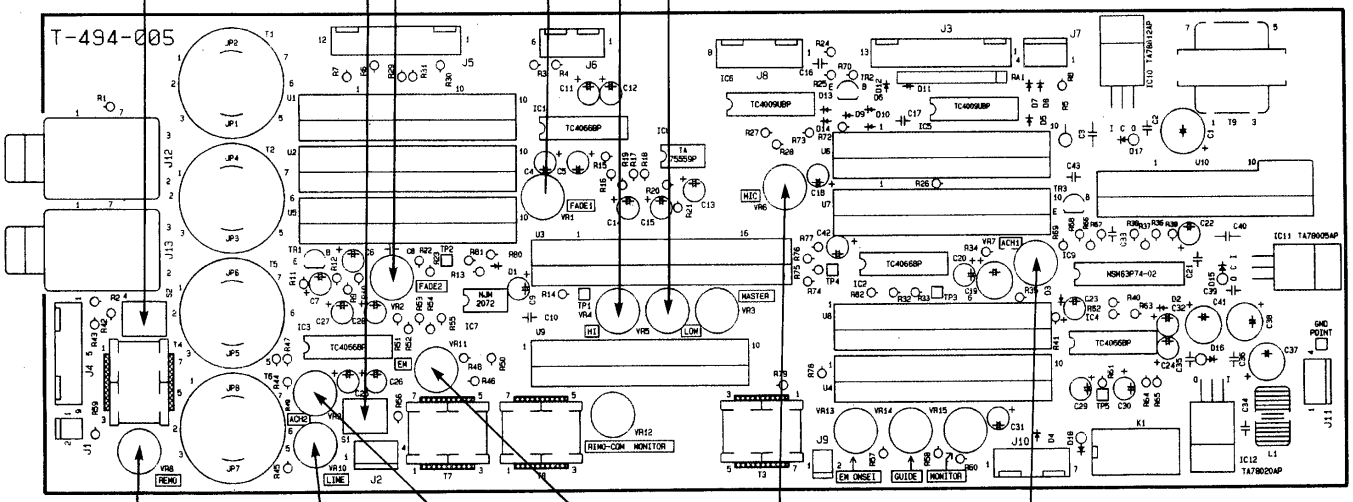
VR4

高音の増幅、減衰が調整できます。

音質（低音用）調整 VR

VR5

低音の増幅、減衰が調整できます。



業務リモコン/外部用音量 VR

VR8

業務リモコン/外部入力の音量が調整できます。

ライン1用音量 VR

VR10

ライン1入力の音量が調整できます。

時報チャイム用音量 VR

VR9

時報チャイム入力の音量が調整できます。

非常リモコン用音量 VR

VR11

非常リモコン入力の音量が調整できます。

非常・業務兼用マイク音量 VR

VR6

非常・業務兼用マイクの音量が調整できます。

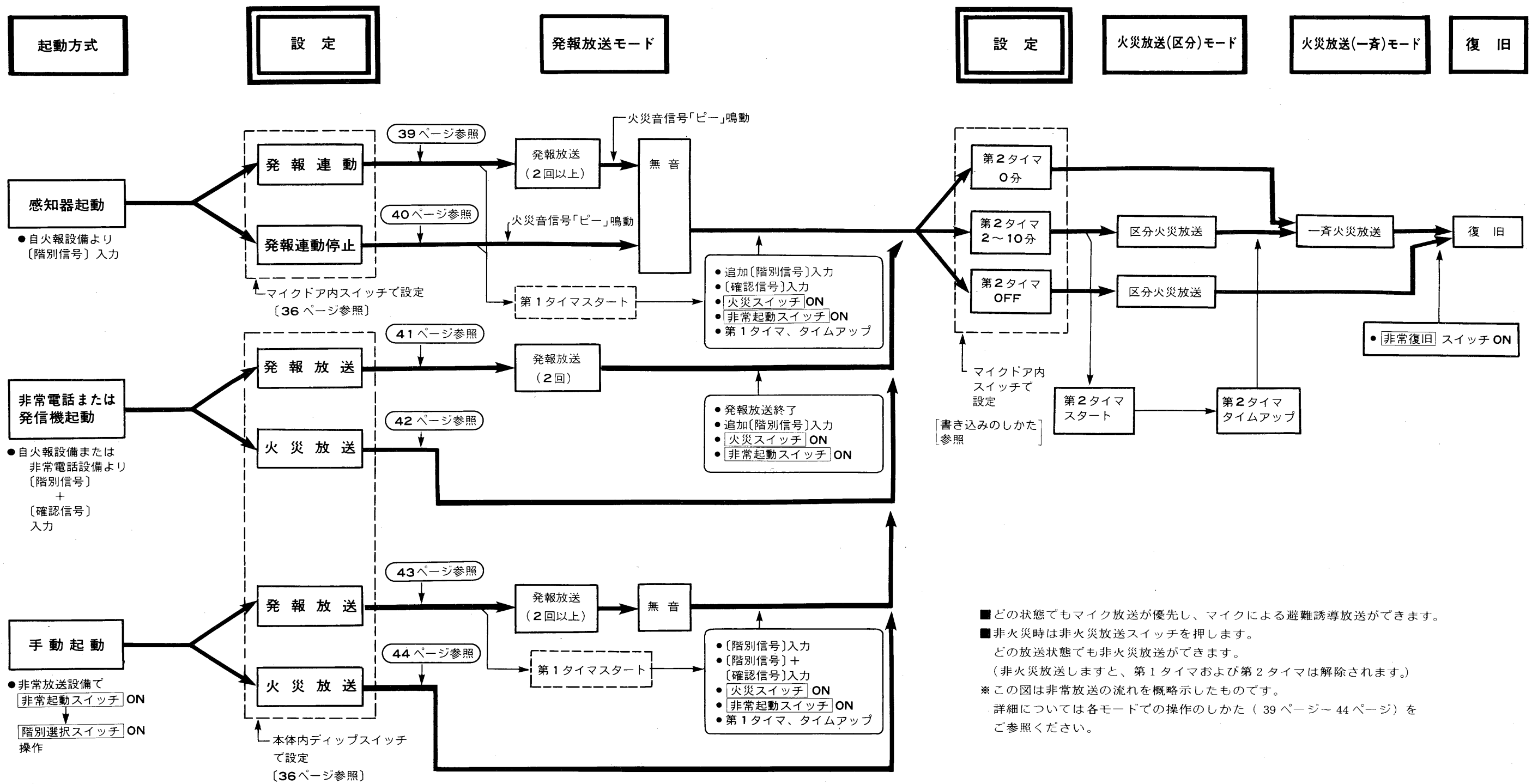
4音チャイム用音量 VR

VR7

4音チャイムの音量が調整できます。

非常放送のしかた

■非常放送設備は火災発生時に音声合成による音声警報（シグナル音＋メッセージ）を自動的に送出します。
■起動方式および設定により動作（操作方法）が異なります。（下図をご参照ください。）
あらかじめ販売店（工事店）から起動方式を確認しておいてください。



■どの状態でもマイク放送が優先し、マイクによる避難誘導放送ができます。
■非火災時は非火災放送スイッチを押します。
どの放送状態でも非火災放送ができます。
（非火災放送しますと、第１タイマおよび第２タイマは解除されます。）
※この図は非常放送の流れを概略示したものです。
詳細については各モードでの操作のしかた（ 39 ページ～ 44 ページ）をご参照ください。

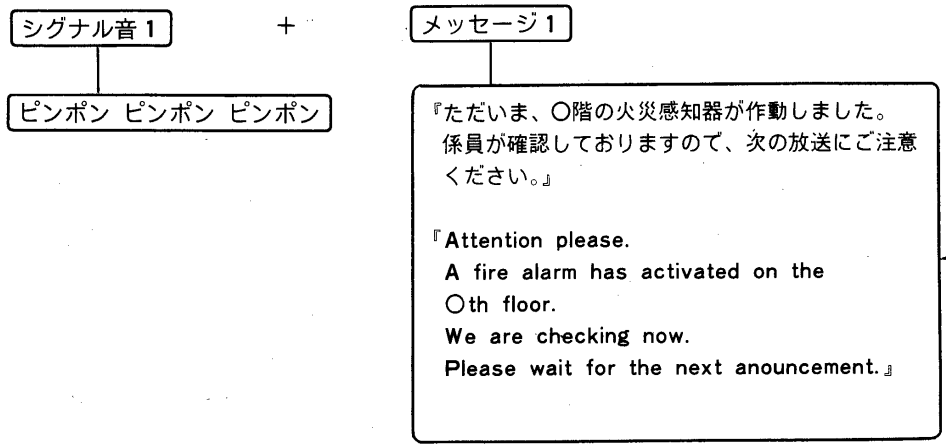
非常放送の流れ

AWH-1200PA (34 / 52)
<生産完了 2006年02月09日>

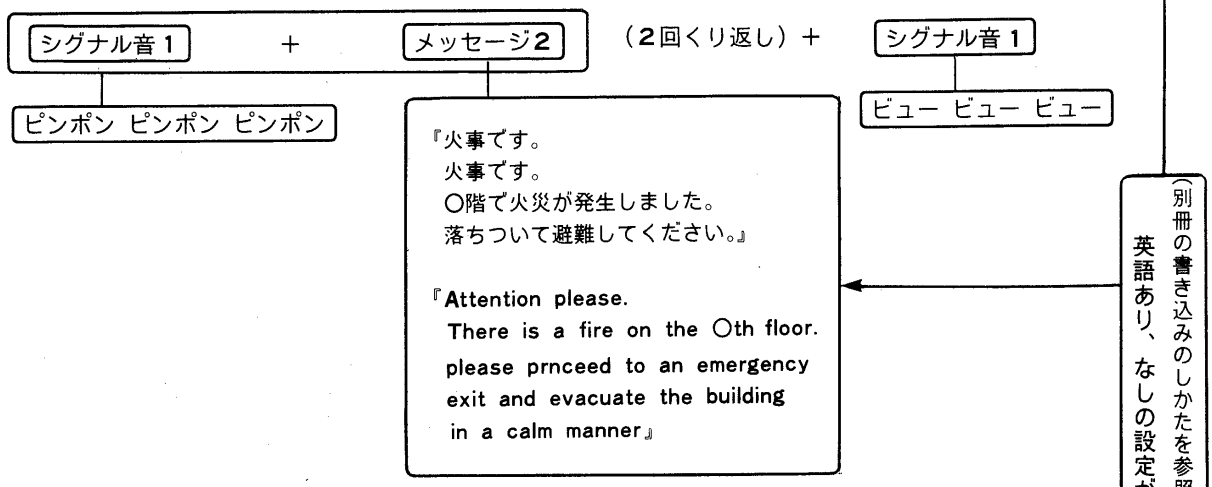
音声警報について

■非常放送時に的確な情報伝達と避難誘導をするための音声合成による放送です。
シグナル音とメッセージの組み合わせで構成され、次の３種類があります。

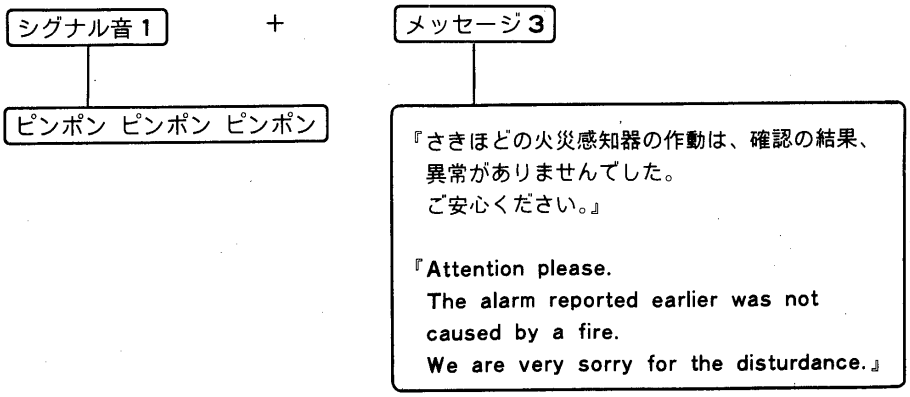
●**発報放送〔女声〕**……発報放送モード時２回くり返し放送されます。
（感知器起動、手動起動時は、連続くり返しに設定変更できます。）
設定方法は、書き込みのしかたを参照ください。



●**火災放送〔男声〕**……火災放送モード時、連続してくり返し放送されます。



●**非火災放送〔女声〕**……非火災放送モード時、２回くり返し放送されます。



＜生産完了 2006年02月09日＞

各種設定について

■発報連動/発報連動停止の設定…〔感知器起動時の動作モードの設定〕

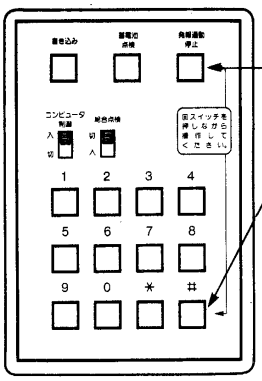
〔動作モード〕

発 報 連 動 ： 出火階、連動階に発報放送が放送されます。

発報連動停止 ： 発報放送は放送されず、本機の火災音ブザーが鳴動します。

発報連動一斉 ： すべての階に発報放送が放送されます。

〔設定方法〕 マイク扉内のスイッチ操作で設定します。



（マイク扉内部）

スイッチを押しながら発報連動停止スイッチを押します。

- 押すたびに順次設定モードが変わります。
- 設定モードにより表示が次のとおり点灯します。

モード	⑧連動一斉表示灯	⑨連動停止表示灯
連　動	消　灯	消　灯
連動一斉	点　灯	消　灯
連動停止	消　灯	点　灯

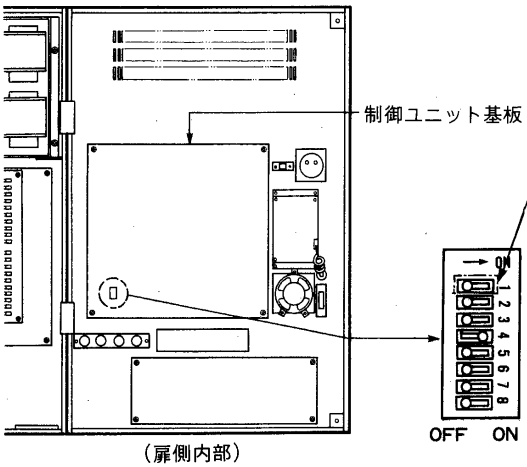
■発報放送/火災放送の設定…〔非常電話または発信機起動時、手動起動時の動作モードの設定〕

〔動作モード〕

発報放送 ： 選択された階に発報放送が放送されます。

火災放送 ： 選択された階に発報放送が放送されず、火災放送が放送されます。

〔設定方法〕 次の手順で行なってください。



（扉側内部）

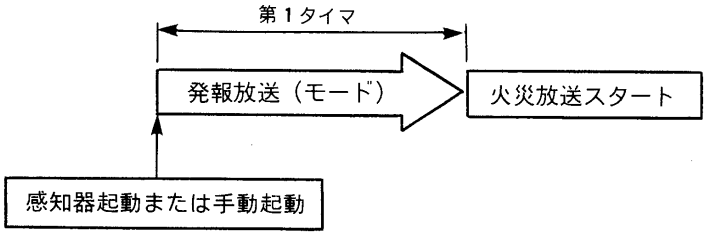
①スイッチ１で設定します。

発報（発報放送後 火災放送）	OFF	←
火災（発報放送なしに 火災放送）	ON	→

②ディップスイッチ変更後はマイク扉内のコンピュータ制御スイッチ㊶を「入」→「切」→「入」にして設定内容を記憶させます。

■**第１タイマの設定**…〔感知器起動時、手動起動時から火災放送へ自動的に移行するタイマ（第１タイマ）の時間設定〕

〔動 作〕　２分～10分（１秒単位で設定可）……初期設定：２分

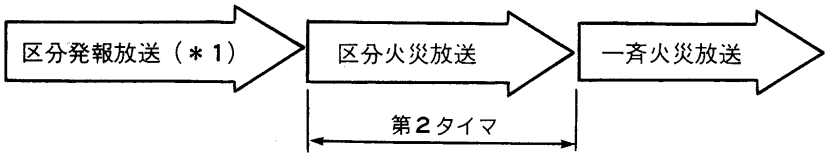


●火災放送は第２タイマの設定により区分火災放送と一斉火災放送のどちらかとなります。
マイク扉内のスイッチ操作で『書き込み』設定します。
書き込みのしかたを参照ください。

■**第２タイマの設定**…〔区分火災放送から一斉火災放送へ自動的に移行するタイマ（第２タイマ）の時間設定〕

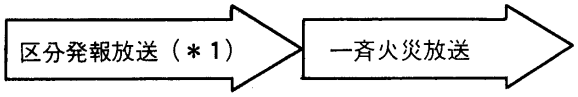
下記の３種類の設定ができます。
出荷時は第２タイマは２分に設定してあります。

〔区分火災放送２～10分の後一斉火災放送へ移行するモード〕：第２タイマ２～10分 設定

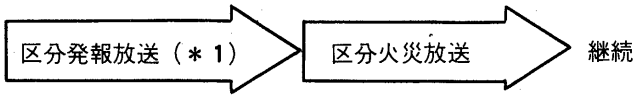


第２タイマは２～10分の間で任意に（１秒単位で）設定できます。

〔区分発報放送後即一斉火災放送へ移行するモード〕：第２タイマ０分 設定



〔区分火災放送を継続し、一斉火災放送へ自動的には移行しないモード〕：第２タイマ OFF 設定



（＊１）起動方式設定により区分発報放送がない場合もあります。

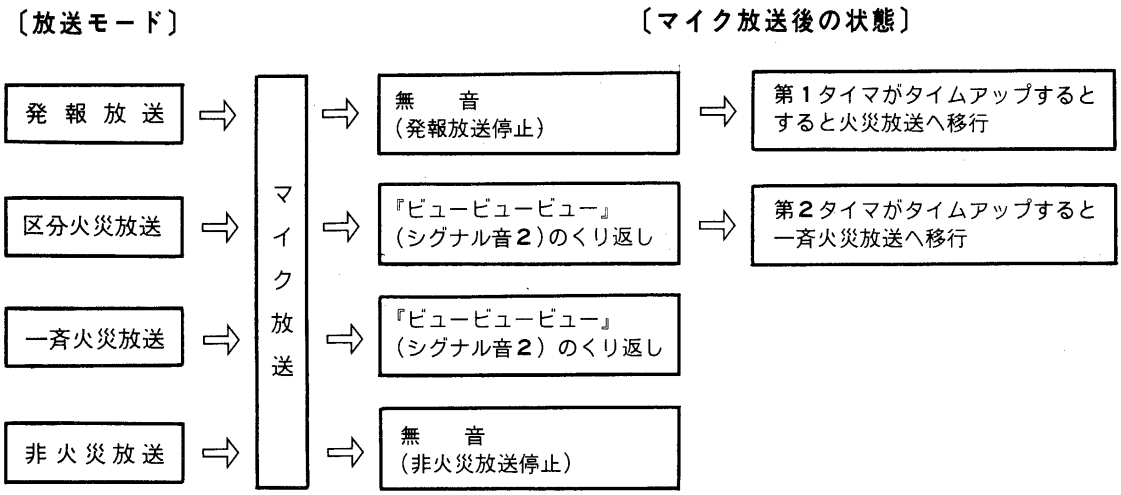
〔設定方法〕

マイク扉内のスイッチ操作で『書き込み』設定します。
書き込みのしかた を参照ください。

マイク放送および放送復旧操作について

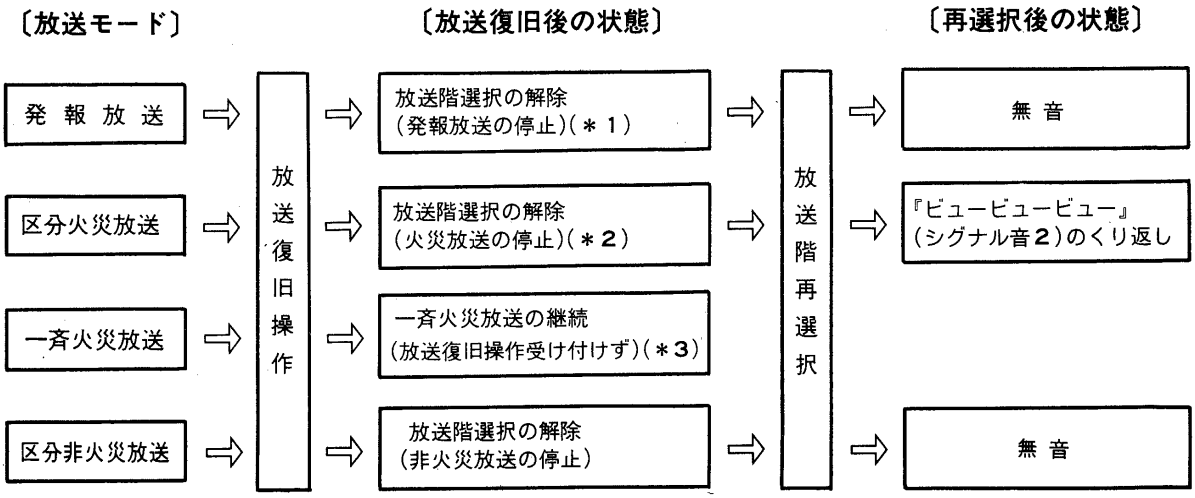
■マイク放送について

●マイク放送はどの状態においても、音声警報放送より優先します。
●各放送モードでマイク放送したときの動作は次のとおりです。



■放送復旧操作について

●各放送モードで放送復旧操作（放送復旧スイッチ㉗の操作）したときの動作は次のとおりです。



（＊1）第1タイマは、継続動作します。
（＊2）第2タイマは、継続動作します。
（＊3）放送階の解除はできません。一斉火災放送の解除は、非常復旧スイッチを操作して行ないます。

非常放送のしかた ①

感知器起動（発報連動の場合） **発報放送**あり

火災発生

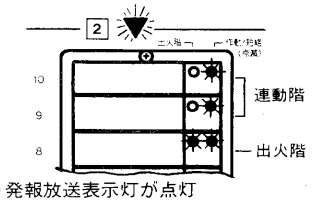
自火報設備から
階別信号入力

1 発報放送 されます。

自動的に出火階、連動階に放送されます。

- 火災灯が点滅。

- 出火階表示灯、階別作動表示灯および放送階選択指示灯が点灯。



- 発報放送表示灯が点灯

- 火災放送移行の第１タイマスタート
（タイマ 動作中は火災灯点滅）
- マイク指示灯および音声警報指示灯が点滅。

発報放送 が２回以上くり返し放送されます。

発報放送

『ピンポン ピンポン ピンポン』
『ただいま、○階の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。』

その後、ブザー音と音声ガイドが交互にモニタスピーカから鳴ります。

ブザー音	ピー……
音声ガイド	火災を確認せよ。 火災のときは、火災スイッチを押せ。

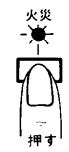
- 発報放送表示灯が点滅。

2 火災を確認します。

注意

- 次の条件により火災放送が自動的に放送されます。
  - 発信機、非常電話の起動
  - 第２感知器の起動
  - 第１タイマのタイムアップ

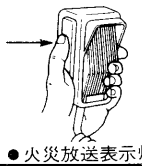
3 火災スイッチを押します。



- 火災灯、火災放送表示灯が点灯。

火災時

4 マイクで放送します。

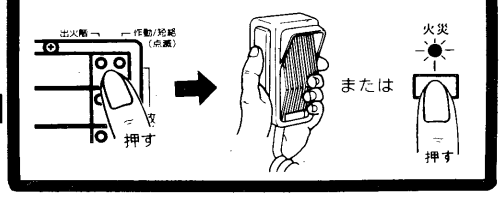


トークスイッチを押しながらマイク放送します。

- 火災放送表示灯が点滅。

5 他の階に放送します。

放送階選択スイッチを押し、マイク放送または火災スイッチを押し、火災放送します。



6 すべての階に 火災放送 がくり返し放送されます。

火災放送

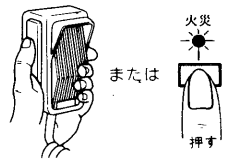
『ピンポン ピンポン ピンポン』
『火事です。火事です。○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。』……２回くり返し
『ピュー ピュー ピュー』

- すべての階別作動表示灯が点灯。

ご注意

- 放送復旧することはできません。

7 マイク放送または 火災放送 します。

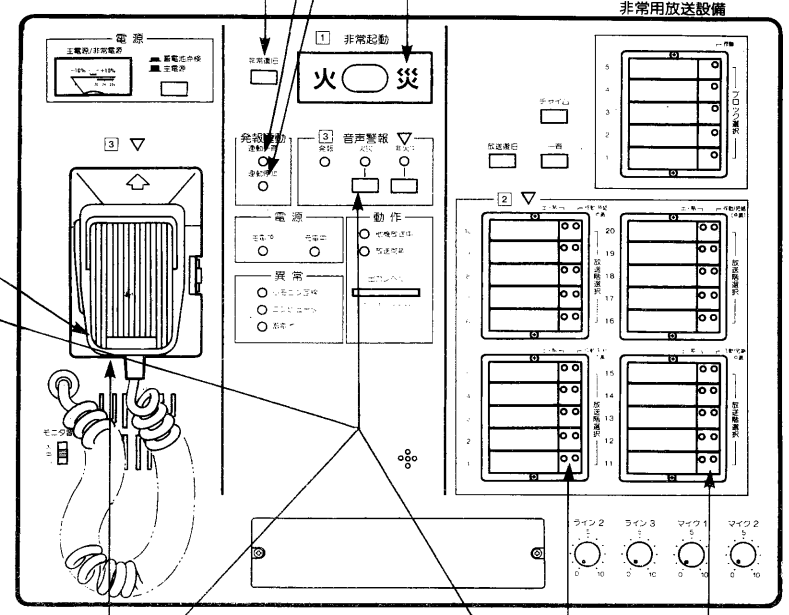


- すべての階に放送されます。
- マイク放送後は、『ピュー ピュー ピュー』のくり返し放送となります。

鎮火

8 自火報設備を復旧させます。

9 非常復旧スイッチを押します。



連動一斉表示灯 消灯

発報連動停止表示灯 消灯

第２タイマの設定
『０分』の場合

第２タイマのタイムアップ

第２タイマの設定
『OFF』の場合

マイク放送終了後
「ビュービュービュー」がくり返し放送されます。

- 火災放送表示灯が点滅。

非火災放送 が２回放送されます。

非火災放送

『ピンポン ピンポン ピンポン』
『さきほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。』

その後は無音となります。

- 非火災放送表示灯が点滅。

火災放送 がくり返し放送されます。

火災放送

『ピンポン ピンポン ピンポン』
『火事です。火事です。○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。』……２回くり返し
『ピュー ピュー ピュー』

3 非火災スイッチを押します。

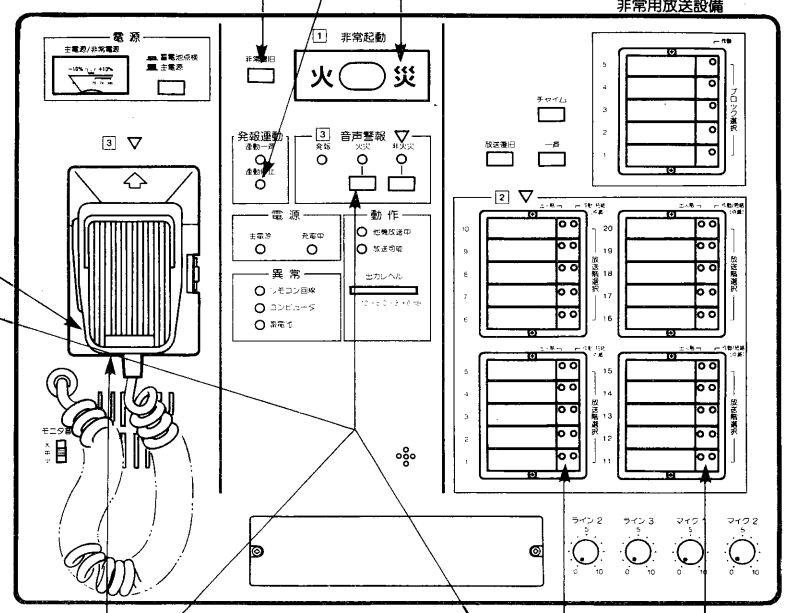
- 非火災放送表示灯が点灯。

非火災時

非常放送のしかた ②

感知器起動（発報連動停止の場合）**発報放送**なし

発報連動停止表示灯点灯



火災発生

自火報設備から階別信号入力

1 ブザー音と音声ガイドが交互にモニタスピーカから鳴ります。

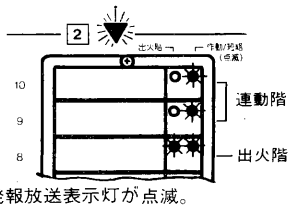
ブザー音　ピー……

音声ガイド　火災を確認せよ。火災のときは、火災スイッチを押せ。

注意 放送はされません。

- 火災灯が点滅。

- 出火階表示灯、階別作動表示灯および放送階選択指示灯が点灯。



- 発報放送表示灯が点滅。

発報

- 火災放送移行の第１タイマスタート（タイマ動作中は火災灯点滅）
- マイク指示灯および音声警報指示灯が点滅。

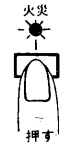
2 火災を確認します。

注意

- 次の条件により火災放送が自動的に放送されます。
  - 発信機、非常電話の起動
  - 第２感知器の起動
  - 第１タイマのタイムアップ

火災時

3 火災スイッチを押します。



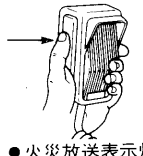
- 火災灯、火災放送表示灯が点灯。

火災放送がくり返し放送されます。

火災放送

『ピンポン ピンポン ピンポン』
『火事です。火事です。○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。』……２回くり返し
『ビュー ビュー ビュー』

4 マイクで放送します。



トークスイッチを押しながらマイク放送します。

- 火災放送表示灯が点滅。

非火災放送が２回放送されます。

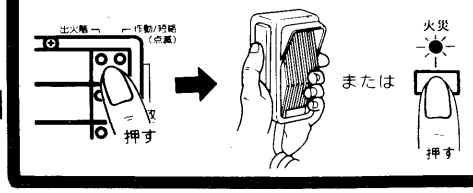
非火災放送

『ピンポン ピンポン ピンポン』
『さきほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。』
その後は無音となります。

- 非火災放送表示灯が点滅。

5 他の階に放送します。

放送階選択スイッチを押し、マイク放送または火災スイッチを押し、火災放送します。



マイク放送終了後「ビュービュービュー」がくり返し放送されます。

- 火災放送表示灯が点滅。

第２タイマのタイムアップ

6 すべての階に**火災放送**がくり返し放送されます。

火災放送

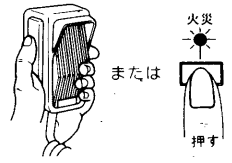
『ピンポン ピンポン ピンポン』
『火事です。火事です。○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。』……２回くり返し
『ビュー ビュー ビュー』

- すべての階別作動表示灯が点灯。

ご注意

- 放送復旧することはできません。

7 マイク放送または**火災放送**します。



- すべての階に放送されます。
- マイク放送後は、『ビュー ビュー ビュー』のくり返し放送となります。

鎮火

8 自火報設備を復旧させます。

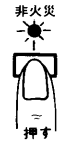
9 非常復旧スイッチを押します。

第２タイマの設定『０分』の場合

第２タイマの設定『OFF』の場合

非火災時

3 非火災スイッチを押します。



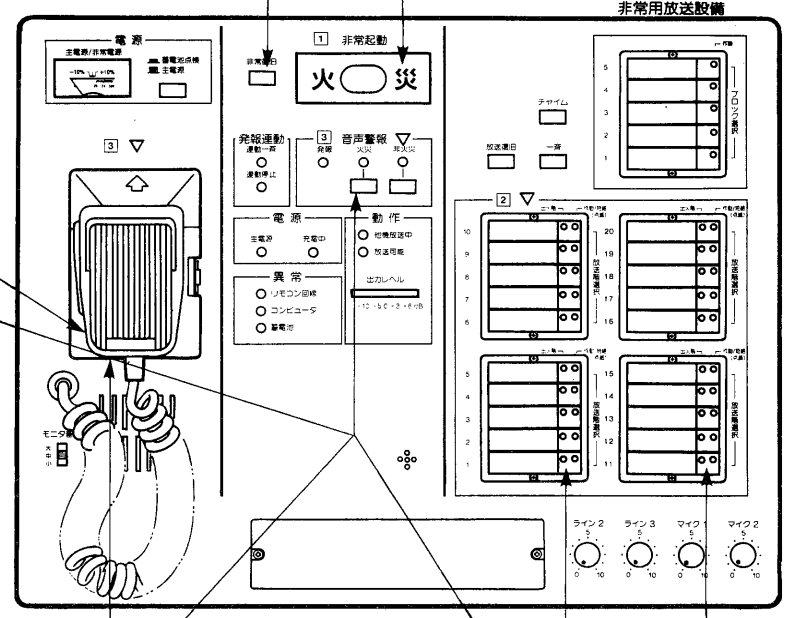
- 非火災放送表示灯が点灯。

AWH-1200PA (40 / 52)
<生産完了 2006年02月09日>

非常放送のしかた ③

発信機・非常電話起動（発報火災切換スイッチが発報側） 発報放送あり

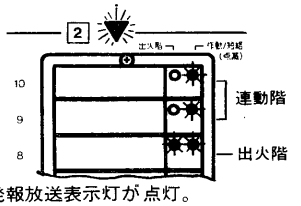
火災発生
自火報設備から
階別信号と
火災確認信号入力



1 発報放送 されます。

自動的に出火階、連動階に放送されます。
- 火災灯が点灯。

- 出火階表示灯、階別作動表示灯および放送階選択指示灯が点灯。



- 発報放送表示灯が点灯。

- マイク指示灯および音声警報指示灯が点滅。

発報放送 が２回以上くり返し放送されます。

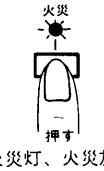
発報放送
『ピンポン ピンポン ピンポン』
『ただいま、○階の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。』

2 火災を確認します。

注意
- 次の条件により火災放送が自動的に放送されます。
- 発報放送の終了。
- 感知器の起動。

火災時

3 火災スイッチを押します。



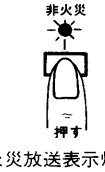
- 火災灯、火災放送表示灯が点灯。

火災放送 がくり返し放送されます。

火災放送
『ピンポン ピンポン ピンポン』
『火事です。火事です。○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。』……２回くり返し
『ピュー ピュー ピュー』

非火災時

3 非火災スイッチを押します。



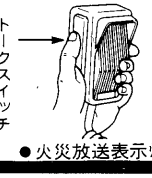
- 非火災放送表示灯が点灯。

非火災放送 が２回放送されます。

非火災放送
『ピンポン ピンポン ピンポン』
『さきほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。』

その後は無音となります。
- 非火災放送表示灯が点滅。

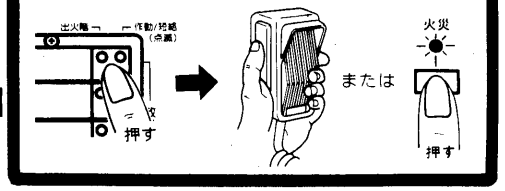
4 マイクで放送します。



トークスイッチを押しながらマイク放送します。
- 火災放送表示灯が点滅。

5 他の階に放送します。

放送階選択スイッチを押し、マイク放送または火災スイッチを押し、火災放送します。



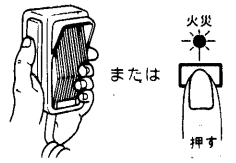
マイク放送終了後
「ビュービュービュー」がくり返し放送されます。
- 火災放送表示灯が点滅。

第２タイマのタイムアップ

第２タイマの設定『０分』の場合

第２タイマの設定『OFF』の場合

7 マイク放送または 火災放送 します。



- すべての階に放送されます。
- マイク放送後は、『ピュー ピュー ピュー』のくり返し放送となります。

鎮火

8 自火報設備を復旧させます。

9 非常復旧スイッチを押します。

6 すべての階に 火災放送 がくり返し放送されます。

火災放送
『ピンポン ピンポン ピンポン』
『火事です。火事です。○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。』……２回くり返し
『ピュー ピュー ピュー』

- すべての階別作動表示灯が点灯。

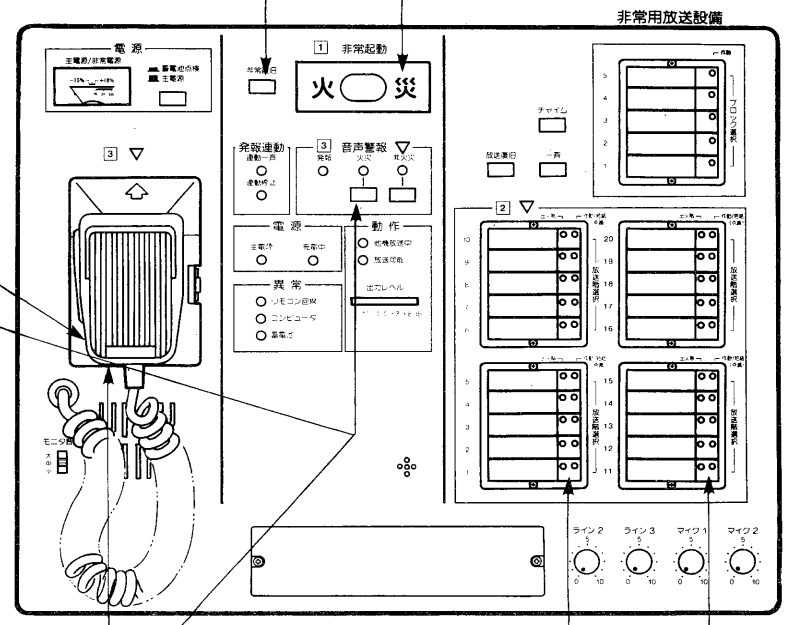
ご注意
- 放送復旧することはできません。

AWH-1200PA（41 / 52）
<生産完了 2006年02月09日>

非常放送のしかた ④

発信機・非常電話起動　（発報火災切換スイッチが**火災**側）の場合

発報放送なし

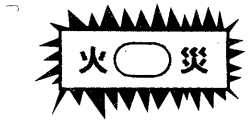


火災発生

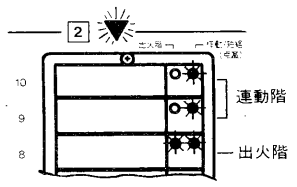
階別信号入力
火災確認信号入力

1 火災放送されます。

自動的に出火階、連動階に放送されます。
- 火災灯が点灯。



- 出火階表示灯、階別作動表示灯および放送階選択指示灯が点灯。

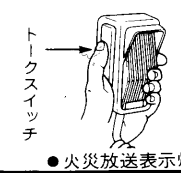


- 火災放送表示灯が点灯。

ご注意
- 第２タイマの設定〔０分〕の場合は、すべての階に放送されます。

第２タイマの設定『０分』の場合

2 マイクで放送します。



トークスイッチを押しながらマイク放送します。
- 火災放送表示灯が点滅。

火災放送がくり返し放送されます。

火災放送
『ピンポン ピンポン ピンポン』
『火事です。火事です。○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。』……２回くり返し
『ビュー ビュー ビュー』

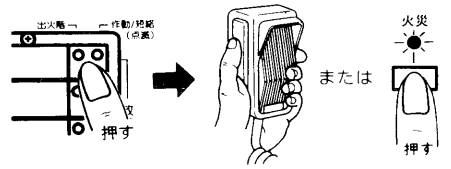
非火災放送が２回放送されます。

非火災放送
『ピンポン ピンポン ピンポン』
『さきほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。』
その後は無音となります。
- 非火災放送表示灯が点滅。

マイク放送終了後
「ビュービュービュー」がくり返し放送されます。
- 火災放送表示灯が点滅。

第２タイマの設定『OFF』の場合

3 他の階に放送します。
放送階選択スイッチを押し、マイク放送または火災スイッチを押し、火災放送します。



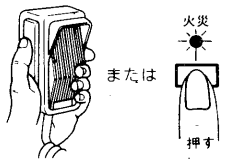
第２タイマのタイムアップ

4 すべての階に火災放送**がくり返し放送されます。**

火災放送
『ピンポン ピンポン ピンポン』
『火事です。火事です。○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。』……２回くり返し
『ビュー ビュー ビュー』
- すべての階別作動表示灯が点灯。

ご注意
- 放送復旧することはできません。

5 マイク放送または火災放送**します。**



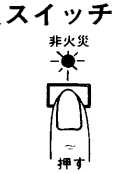
- すべての階に放送されます。
- マイク放送後は、『ビュー ビュー ビュー』のくり返し放送となります。

鎮火

6 自火報設備を復旧させます。

7 非常復旧スイッチを押します。

3 非火災スイッチを押します。



- 非火災放送表示灯が点灯。

非火災時

AWH-1200PA (42 / 52)
<生産完了 2006年02月09日>

非常放送のしかた ⑤

手動起動　（発報火災切換スイッチが**発報**側）の場合　**発報放送**あり

火災発生

1 非常起動スイッチを押します。

非常起動　火災　押す

- 火災灯が点滅。
- 放送階選択指示灯が点滅。

音声ガイドがモニタスピーカから鳴ります。

音声ガイド　放送階を選択せよ。

2 放送階選択スイッチ（一斉スイッチ）を押します。

作動表示灯点灯　放送　押す

- 火災灯点滅。
- 発報放送表示灯が点灯

発報

- 火災放送移行の第１タイマスタート（タイマ動作中は火災灯点滅）

発報放送が２回以上くり返し放送されます。

発報放送

『ピンポン ピンポン ピンポン』
『ただいま、火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。』

その後、無音となり、音声ガイドがモニタスピーカから鳴ります。

音声ガイド　火災を確認せよ。火災のときは、火災スイッチを押せ。

- 発報放送表示灯が点滅。

3 火災を確認します。

注意

- 次の場合自動的に火災放送されます。
  - 感知器、発信機、非常電話の起動。
  - 第１タイマのタイムアップ。
- 放送復旧スイッチを押すことにより発報放送の停止（第１タイマは継続）ができます。

火災時

4 火災スイッチを押します。

火災　押す

- 火災灯、火災放送表示灯が点灯。

火災放送がくり返し放送されます。

火災放送

『ピンポン ピンポン ピンポン』
『火事です。火事です。火災が発生しました。落ち着いて避難してください。』……２回くり返し
『ビュー ビュー ビュー』

5 マイクで放送します。

トークスイッチ　トークスイッチを押しながらマイク放送します。

- 火災放送表示灯が点滅。

非火災放送が２回放送されます。

非火災放送

『ピンポン ピンポン ピンポン』
『さきほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。』

その後は無音となります。

- 非火災放送表示灯が点滅。

マイク放送終了後「ビュービュービュー」がくり返し放送されます。

- 火災放送表示灯が点滅。

6 他の階に放送します。

放送階選択スイッチを押し、マイク放送または火災スイッチを押し、火災放送します。

作動/短絡（点滅）　押す　または　火災　押す

第２タイマの設定『０分』の場合

第２タイマのタイムアップ

第２タイマの設定『OFF』の場合

7 すべての階に**火災放送**がくり返し放送されます。

火災放送

『ピンポン ピンポン ピンポン』
『火事です。火事です。火災が発生しました。落ち着いて避難してください。』……２回くり返し
『ビュー ビュー ビュー』

- すべての階別作動表示灯が点灯。

ご注意

- 放送復旧することはできません。

8 マイク放送または**火災放送**します。

火災　または　押す

- すべての階に放送されます。
- マイク放送後は、『ビュー ビュー ビュー』のくり返し放送となります。

鎮火

9 自火報設備を復旧させます。

10 非常復旧スイッチを押します。

非常復旧　押す

3 非火災スイッチを押します。

非火災　押す

- 非火災放送表示灯が点灯。

非火災時

非常用放送設備

非常放送のしかた ⑥

手動起動（発報火災切換スイッチが**火災**側）**発報放送**なし

火災発生

1 非常起動スイッチを押します。

非常起動 火災 押す

- 火災灯が点灯。
- 放送階選択指示灯が点滅。

音声ガイドがモニタスピーカから鳴ります。

音声ガイド　放送階を選択せよ。

2 放送階選択スイッチ（一斉スイッチ）を押します。

作動表示灯 点灯　押す

- 火災放送表示灯が点灯。

火災

ご注意

- 第２タイマの設定〔０分〕の場合は、すべての階に放送されます。

非常用放送設備

第２タイマの設定『０分』の場合

3 マイクで放送します。

トークスイッチ　トークスイッチを押しながらマイク放送します。

- 火災放送表示灯が点滅。

火災放送がくり返し放送されます。

火災放送

『ピンポン ピンポン ピンポン』
『火事です。火事です。火災が発生しました。
落ち着いて避難してください。』……２回くり返し
『ビュー ビュー ビュー』

非火災放送が２回放送されます。

非火災放送

『ピンポン ピンポン ピンポン』
『さきほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。』

その後は無音となります。

- 非火災放送表示灯が点滅。

3 非火災スイッチを押します。

非火災 押す

- 非火災放送表示灯が点灯。

マイク放送終了後「ビュービュービュー」がくり返し放送されます。

- 火災放送表示灯が点滅。

4 他の階に放送します。

放送階選択スイッチを押し、マイク放送または火災スイッチを押し、火災放送します。

作動表示灯 点灯　押す　または　火災　押す

第２タイマのタイムアップ

5 すべての階に**火災放送**がくり返し放送されます。

火災放送

『ピンポン ピンポン ピンポン』
『火事です。火事です。火災が発生しました。
落ち着いて避難してください。』……２回くり返し
『ビュー ビュー ビュー』

- すべての階別作動表示灯が点灯。

ご注意

- 放送復旧することはできません。

6 マイク放送または**火災放送**します。

火災　または　押す

- すべての階に放送されます。
- マイク放送後は、『ビュー ビュー ビュー』のくり返し放送となります。

第２タイマの設定『OFF』の場合

鎮火

7 自火報設備を復旧させます。

8 非常復旧スイッチを押します。

非常復旧 押す

業務放送のしかた

■準　備

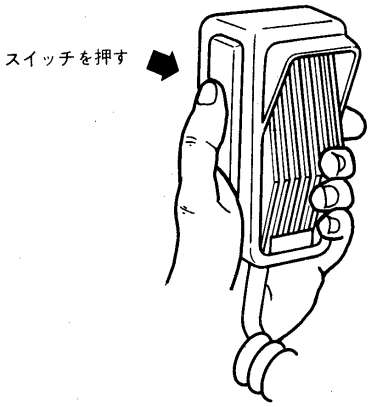
●すべての音量調節ツマミが「左いっぱいに絞った」位置にあることを確かめてください。

●放送したい場所の放送階選択スイッチまたはブロック選択スイッチを押してください。放送可能表示灯が点灯し電源が入ります。

■操作のしかた

●非常、業務兼用マイクロホン⑨を使用するとき

●マイクを外し、スイッチを押しながら放送してください。



●ICチャイムの使いかた

●予告音としてチャイムを放送したい場合は、チャイムスイッチ㉘を一度押しますとチャイム音が放送されます。

●チャイム音を続けて放送する場合は、ボタンから一度指を離しチャイム音が鳴り終わってから約2～3秒たって、もう一度チャイムスイッチ㉘を押してください。

●有線マイクロホンを使用するとき

●端子台のマイク1入力またはマイク2入力にマイクロホンからのコードをつなぎます。このとき使用するマイクロホンは、インピーダンス200Ω～50kΩのものをお使いください。
（平衡形マイク、不平衡形マイクどちらでも使用できます。）

●マイク音量調節ツマミ㊲または㊳をゆっくり右にまわし、お好みの音量に調節してください。

ご注意

音量調節ツマミは配線上のノイズが発生する場合がありますので必要以上に右に回さないようにしてください。

●テープデッキ（カセットテープデッキ、オープンデッキ）CDプレーヤ等の外部機器を使用するとき

●外部機器を使用するときは、端子台のライン2入力またはライン3入力を使用してください。

●外部機器を動作させ、外部機器の音量調節ツマミか音量調節ツマミ㉟または㊱でお好みの音量に調節してください。

●放送内容を録音するとき

●端子台の録音出力にテープレコーダの「ライン入力（LINE IN）」を接続してください。

●テープレコーダの録音レベル調節器で最適レベルに調節しながら録音してください。

ご注意 停電時は業務放送できません。

●モニタのしかた

●本機にはモニタスピーカが内蔵されています。
モニタ音量調節器⑪で必要に応じて調節してください。

●非常・業務兼用マイクロホン⑨のマイク放送スイッチを押すとモニタスピーカの音が切れハウリングを防止します。

●放送の出力に応じて放送出力レベル計⑲のLEDが点灯します。緑色が点灯する範囲で音量を調節してご使用ください。

●別売の組み込みユニットの使いかた

●別売ユニットを組み込んでご使用のときは、ユニットに付属の取扱説明書をご参照ください。

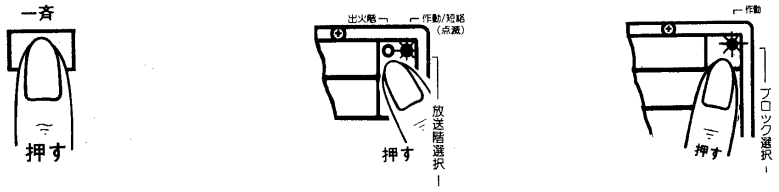
●放送終了後は放送復旧スイッチ㉗を押してください。

＜生産完了 2006年02月09日＞
AWH-1200PA (45 / 52)

■放送先の選択のしかた

- ●全回線一斉に緊急放送したい場合は一斉放送スイッチ㉙を押します。
- ●回線別に放送したい場合は放送階選択スイッチ㉞を押します。
- ●ブロック放送したい場合は、ブロック選択スイッチ㉚を押します。

➡ 選択された回線またはブロック指定された回線の階別作動表示灯㉝が点灯し、放送可能表示灯⑱が点灯します。
電力増幅器の電源が入ります。
緊急放送時(アッテネータのきかない放送時)は、放送階選択指示灯㉛が点灯します。



●ブロックスイッチで放送する場合

- ●ブロック放送をするとき…… ブロック選択スイッチ㉚を押します。
- ●ブロック放送を終了したとき…… 選択したブロック選択スイッチ（階別作動表示灯㉝の点灯しているスイッチ）を再度押すか、放送復旧スイッチ㉗を押します。
- ●２以上のブロックに放送するとき…… 放送したいブロックスイッチ㉚を順に押します。
- ●ブロックの中で放送したくない場所があるとき…… 放送したくない、不要な場所の放送階選択スイッチ㉞を押します。（階別作動表示灯㉝が消え、選択が解除されます。）
- ●選択したブロックに放送したい場所を追加するとき…… 放送したい階別選択スイッチ㉞を押します。
（階別作動表示灯㉝が点灯し、追加されます。）

ご注意

- ●ブロック放送は、あらかじめブロック選択スイッチ㉚に放送先を書き込む必要があります。
（ブロック放送は、緊急放送の指定もできます。）

■業務放送の優先順位について

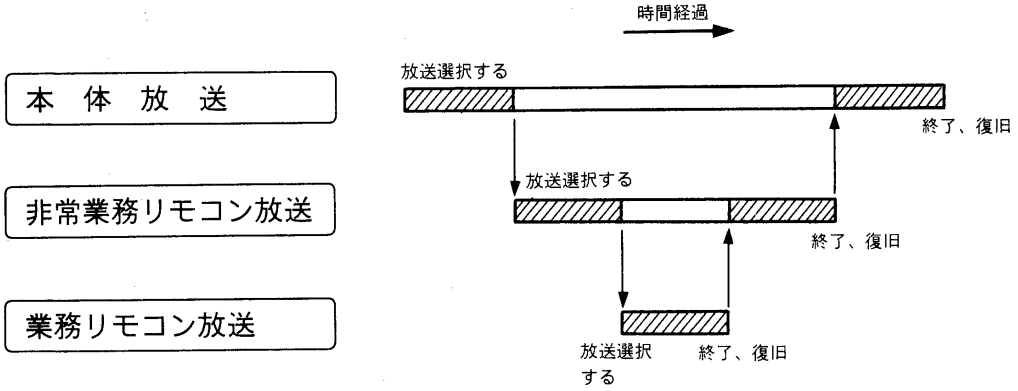
- ●書き込みにより、次の例のように最大４段階に順位をつけることができます。
同一優先内は、後取り優先またはミキシングのどちらかに設定できます。
（設定のしかたは別冊の〝書き込みのしかた〟をご参照ください。）

（優先順位の例）

放送内容(入力)	第１優先	第２優先	第３優先	第４優先
時報チャイム	○			
本体放送		○		
非常業務リモコン		○		
業務リモコン			○	
ライン１入力				○

- ●出荷時は、全ての放送が第１優先で後取り優先に設定されています。

（後取り優先の動作例）



■オートレベルダウンについて

- ライン２入力、３入力および組み込みユニット入力の放送中にマイク放送および外部からの入力による放送をした場合に、ライン２入力、３入力および組み込みユニットの放送を自動的にレベルダウンさせることができます。
- レベルダウンの程度を調整したい場合は、32～33ページの調整のしかたに従って調整してください。
（出荷時はレベルダウンがない状態にセットしてあります。）

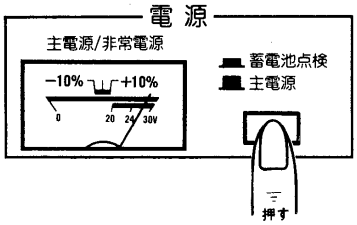
保守点検のしかた（保守点検者の方へ）

非常用放送設備の保守点検は有資格者(消防設備士、第２種消防設備点検資格者)でなければ行なえませんのでご注意ください。

非常用蓄電池のチェックのしかた

●蓄電池点検スイッチ⑤でチェックします。点検スイッチ⑤を押したとき、主電源/非常電源電圧計④の指針が24～30Ｖ線の間に振れれば十分です。
この範囲内に振れないときは蓄電池が寿命ですのですぐに新しい蓄電池との交換が必要です。なお、蓄電池点検は１回５秒以内とし、５秒以上点検スイッチを押さないでください。

●非常用蓄電池の標準寿命は約４年ですが、非常時に機器を正しく動作させるためにも上記の方法でチェックし、早めの交換をしてください。

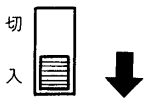


※１　本機はトリクル充電方式を採用しており常時充電しております。

総合点検について

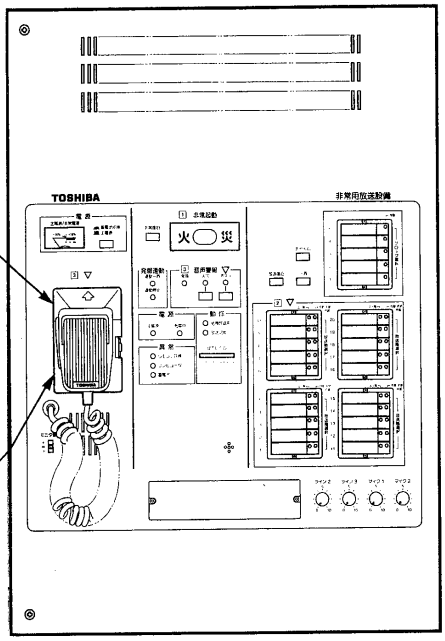
●スピーカから音を出さずに本機の総合点検ができます。

●マイク扉内の総合点検スイッチ㊷を〝入〟にします。



●非常放送、業務放送を行い動作を各表示灯モニタスピーカ、出力レベル計で確認します。

●動作確認を終了したら総合点検スイッチ㊷を〝切〟にもどします。

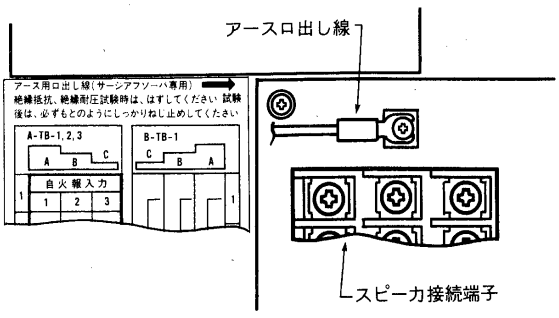


■絶縁耐圧試験、絶縁抵抗試験をするときは

消防検査、定期点検などで、スピーカ回線とアース間の絶縁耐圧、抵抗試験を行なうときは、スピーカ接続端子の上にあるアース用口出し線（サージアブソーバ専用）をはずしてから試験してください。（下図参照）

※サージアブソーバとは、機器を雷などの誘導電圧から守るための素子で、これを取付けたまま試験すると不合格となることがあります。

※試験終了後は必らずアース用口出し線を元にもどして接続してください。

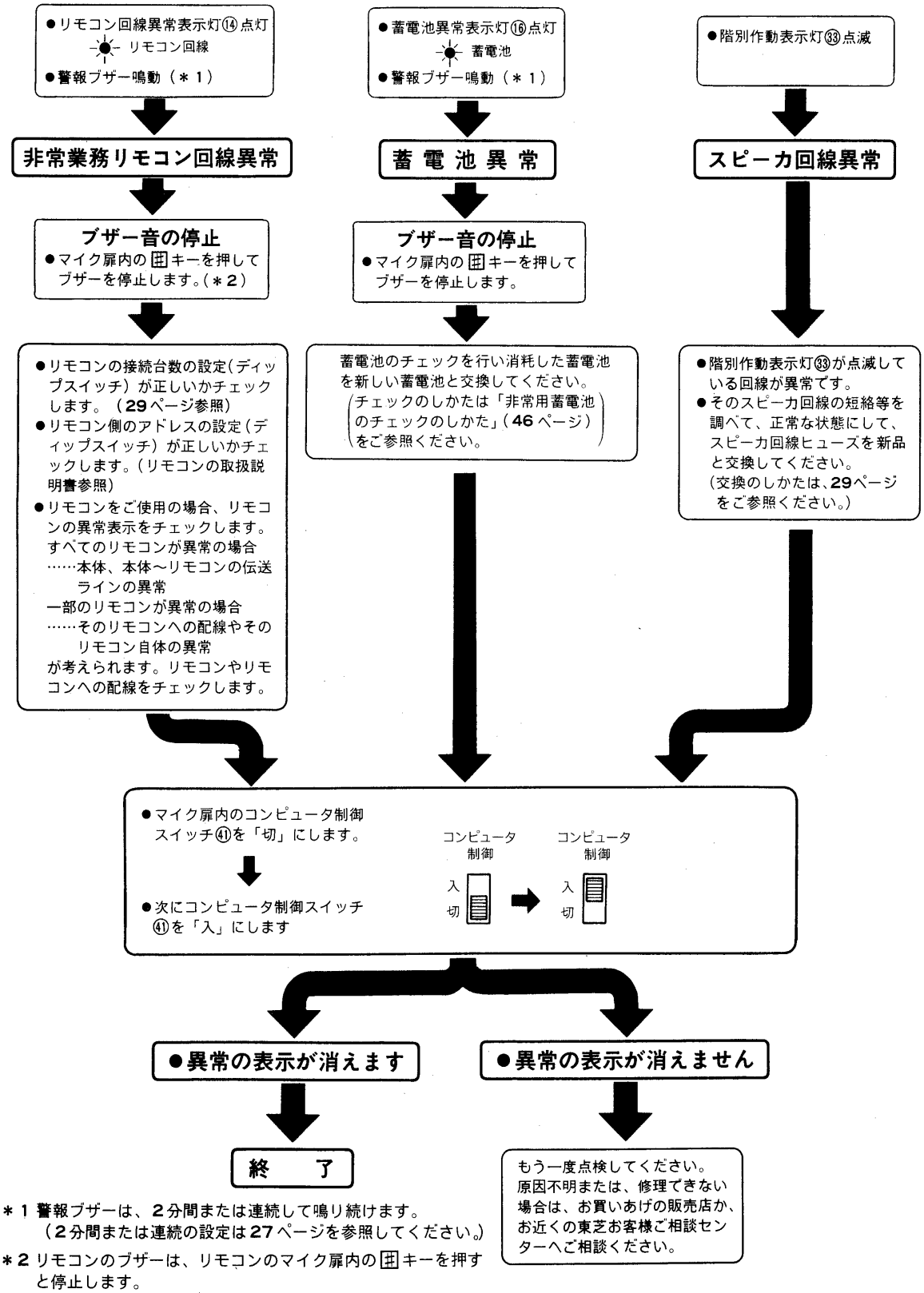


自動点検について

- 本機では、常に非常業務リモコンとの通信状態の点検を自動的に行ないます。
- また、24時間ごとに蓄電池の電圧を点検しています。

異常発生時の処置のしかた

- 非常業務リモコンとの通信異常および蓄電池異常が自動点検時発見されると異常表示灯が点灯し、警告ブザーが鳴ります。
- スピーカ回線の短絡等によりスピーカ回線保護ヒューズが溶断しますと、その階別作動表示灯㉝が点滅表示します。
- 上記の異常発生時は、次のように処置してください。



＊1 警報ブザーは、2分間または連続して鳴り続けます。
（2分間または連続の設定は27ページを参照してください。）

＊2 リモコンのブザーは、リモコンのマイク扉内の 井 キーを押すと停止します。

＜生産完了 2006年02月09日＞

修理サービス

ご使用中に異常が生じたときは、お使いになるのをやめ、電源スイッチを「切」にし、お買いあげの販売店またはお近くの東芝お客様ご相談センターにご相談ください。なお、ご相談されるときは機器の形名およびお買いあげ時期をお忘れなくお知らせください。ご相談される前にいま一度下表の項目を点検してください。

症状		点検項目	処置
電源が入らない 電源表示灯が点灯しない	主電源表示灯⑫が消えている 充電中表示灯⑬が消えている	主電源(AC 100V)供給元のブレーカが作動していませんか	ブレーカを「入」にする
		電源ヒューズ　が溶断していませんか	規定の▽マークの新しいヒューズと交換します
音が全く出ない	電力増幅器ユニットのパワートランジスタ保護ヒューズが溶断している	このヒューズが溶断するのはスピーカラインが短絡、地絡したりすると溶断します　このようなことがありませんでしたか？	スピーカラインの短絡、地絡箇所をなおし、電力増幅器内部のヒューズを新しいヒューズと交換します　（注）
		スピーカのアッテネータが"OFF"の位置になっていませんか	スピーカアッテネータを1.2.3のいずれかの適正な位置にセットします
		異常表示灯が点灯していませんか	自動点検について（49ページ）に従ってチェックしてください
音が時々途切れる	特定の入力機器(マイクロホンなど)の放送が時々途切れる	その入力機器の接続コードが断線しかかっていませんか	接続コードの交換、手直しをします
	すべての放送が時々途切れる	途切れたとき放送出力レベル計⑲が全点灯（赤色のところまで全部点灯）しませんか	発振しています。 発振の原因を取り除きます （注）
ブザー音が鳴る ブザーの停止方法 ●マイク扉内の#キーを押します。 （リモコンのブザーはリモコン側のマイク扉内の#キーを押します）	リモコン回線異常表示灯⑭点灯	リモコンの接続台数の設定（ディップスイッチ）が正しいですか	適正な設定とします （29ページ参照）
		リモコン側でのアドレス設定（ディップスイッチ）が正しいですか	リモコン側で適正に設定にします （リモコンの取扱説明書参照）
		本体ーリモコン間の伝送ラインが断線、短絡していませんか	断線、短絡をなおします
	蓄電池異常表示灯⑯点灯	蓄電池の電圧をチェックします （48ページ参照）	電池が消耗している場合は、新しい電池に交換します

（注）これらの原因調査や交換はお買いあげの販売店またはお近くの東芝お客様ご相談センターにご依頼ください。

＜生産完了 2006年02月09日＞
AWH-1200PA (50 / 52)

仕　様

●壁掛形非常放送アンプ本体

10局用：AWH-1010RC, 20局用：AWH-1020RC

使用電源		常　用：AC100V　50/60Hz 非常用：DC24V			
消費電力（電力増幅器ユニット組込時）	電力増幅器ユニット	60W	120W	240W	
	消費電力（＊）	190W	230W	320W	
	定格出力時消費電力	280W	420W	700W	
適合電力増幅器ユニット	60W	AWH－600PA			
	120W	AWH－1200PA			
	240W	AWH－2400PA			
ミキサー部	周波数特性	50～15000Hz±3dB			
	ひずみ率	1％以下			
	音質調整	低：100Hz ±10dB（1kHz基準） 高：10kHz ±10dB（1kHz基準）			
	マイク1入力（音量調節器付）	入力レベル　－64dB SN比　50dB以上 入力インピーダンス　600Ω　不平衡（平衡可）			
	マイク2入力（音量調節器付）	入力レベル　－64dB SN比　50dB以上 入力インピーダンス　600Ω　不平衡（平衡可）			
	チャイム入力	入力レベル　0dB SN比　65dB以上 入力インピーダンス　600Ω　不平衡（平衡可）			
	ライン1入力	入力レベル　－20dB SN比　65dB以上 入力インピーダンス　600Ω　不平衡（平衡可）			
	ライン2入力（音量調節器付）	入力レベル　－20dB SN比　65dB以上 入力インピーダンス　10kΩ　不平衡			
	ライン3入力（音量調節器付）	入力レベル　－10dB SN比　65dB以上 入力インピーダンス　10kΩ　不平衡			
	業務リモコン/外部入力	入力レベル　0dB/－20dB SN比　65dB以上 入力インピーダンス　600Ω　平衡			
	ユニット入力	入力レベル　－20dB SN比　65dB以上 入力インピーダンス　10kΩ　不平衡			
	録音出力	出力レベル　0dB 適合負荷インピーダンス　10kΩ以上　不平衡			
非常業務操作部	マイク入力（非常業務兼用）	入力レベル　－46dB SN比　55dB以上 入力インピーダンス　600Ω　不平衡 周波数特性　300～6000Hz ± 3dB ひずみ率　1％以下			
	音声警報メッセージ	感知器発報放送	ただいま○階の火災感知器が作動しました。係員が確認しておりますので次の放送にご注意ください。		
		火災放送	火事です。火事です。○階で火災が発生しました。落ちついて避難してください。		
		非火災放送	さきほどの火災感知器の動作は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。		
	音声警報シグナル音	非常用放送設備委員会統一音			
	音声合成部	サンプリング周波数　8kHz以上 再生周波数帯域　3kHz以上			
	非常リモコン入力（2回路）	入力レベル　0dB SN比　65dB以上 入力インピーダンス　600Ω　平衡			

（＊）電気用品取締法による測定方法に基づく。

非常業務操作部	出力レベル計	5ポイントLED
	モニタスピーカ	1W/8Ω　音量調節器（3段階切換）付
	階別作動表示	LED（緑）
	出火階表示	LED（赤）
	回線短絡表示	階別付動表示灯点滅
	発報放送	LED（橙）
	火災放送	LED（赤）
	非火災放送	LED（緑）
	連動停止表示	LED（赤）
	連動一斉表示	LED（赤）
	制御回線	放送階選択：AWH－1010RC　10回線＋一斉 AWH－1020RC　20回線＋一斉 ブロック選択：5回線
負荷インピーダンス		60W：170Ω 120W：85Ω 240W：42Ω
使用蓄電池		ニッカド蓄電池

	形名	容量
60W	NBT－2000	1.65Ah/5HR
120W	NBT－3000	3.5 Ah/5HR
240W	NBT－4000	6.0 Ah/5HR

（注）60Wで非常業務リモコン使用時には、NBT－3000を使用してください。

外部制御端子	スピーカ出力	AWH－1010RC　10回線 AWH－1020RC　20回線
	自火報制御入力	階別信号：AWH－1010RC　10回路 AWH－1020RC　20回路 火災確認信号：1回路
	非常リモコン	最大2台
	外部制御入力	12回路（無電圧メイク接点入力） （音声入力は、業務リモコン/外部、チャイム、ライン1のいずれかに設定可能）
	EB出力	1回路（無電圧メイク接点　DC24V　1A MAX）
	電源カットリレー出力	1回路（常時DC24V出力・非常時断 接点容量 0.5A MAX）
	スピーカ切換出力	1回路（非常時無電圧メイク接点出力 DC24V 1A MAX）
外形寸法		幅480㎜　高さ670㎜　奥行150㎜
質量		約19㎏（電力増幅器ユニット、蓄電池を除く）
外観		塗装色　メインカラー （マンセル3.7YR7.7/0.1近似色） シルク印刷　ブラウングレー （マンセル10YR4/1近似色）
組込み適合ユニット		ラジオユニット　ARU－2200AF カセットテープユニット　ATU－1100C
その他		（1）放送優先は、後取りまたはミキシング設定可能 （2）マイク放送、外部入力放送の優先（オートレベルダウン）機能付き （3）音声警報メッセージの英文追加可能
付属品		ヒューズ

AWH-1010RC	AWH-1020RC
0.3A ……10	0.3A ……20
0.5A ……1	0.5A ……1
1 A ……1	1 A ……1
2 A ……1	2 A ……1
15 A ……1	15 A ……1

大形単頭プラグ（6.3φ,3P）……1
取扱説明書……1
書き込みのしかた……1
非常放送のしかた……1
壁取付用型紙……1
東芝お客様ご相談センター一覧表……1

＜生産完了 2006年02月09日＞

●電力増幅器ユニット

60W：AWH-600PA, 120W：AWH-1200PA, 240W：AWH-2400PA

使用電源	常　用：AC100V　50/60Hz 非常用：DC24V
消費電力（＊）	AWH－600PA；　62W AWH－1200PA；　110W AWH－2400PA；　200W
定格出力時消費電力	AWH－600PA；　160W AWH－1200PA；　300W AWH－2400PA；　580W
定格出力	AWH－600PA；　60W AWH－1200PA；　120W AWH－2400PA；　240W
組込み適合機器	壁掛形非常放送アンプ本体 AWH－1010RC（10局） AWH－1020RC（20局）
周波数特性	50Hz（－5dB以内）～15kHz（－6dB以内） （1kHz基準） 建設省規格1級に適合
ひずみ率	1％以下（1kHz基準）
S　N　比	60dB以上
入力回路	0dB　600Ω　平衡
負荷インピーダンス（100Vライン）	AWH－600PA；　167Ω AWH－1200PA；　83Ω AWH－2400PA；　42Ω
質量	AWH－600PA；約7kg AWH－1200PA；約9kg AWH－2400PA；約16kg
付属品	ヒューズ

AWH-600PA	AWH-1200PA	AWH-2400PA
3A……1	4A……1	7A……1
5A……2	7A……2	15A……2

取付用ねじ（M5×10）……4

（＊）電気用品取締法による測定方法に基づく。